

第2章

「東北発・新型アグリツーリズム」への挑戦者 I

—上山市におけるクアオルトの事例研究—

安部 雅人

(公益財団法人東北活性化研究センター)

第1節 はじめに

「東北発・新型アグリツーリズム」には、「観光」「健康」「環境」を併せ持つ「アグリツーリズム」の形態である「ウェルビーイング・ツーリズム」若しくは「ヘルスツーリズム」の活用が望ましいと考えられる¹。そこで高齢化の拡大と「生活習慣病」の増加に伴い健康増進事業が着目されている中で、山形県上山市（以下、「上山市」という。）にて採り入れられているクアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）について着目したい。

上山市は、良質な果物が四季を通して育つ気候と土地、里山と樹氷で名高い蔵王連峰に囲まれた自然環境に大変恵まれた地域に位置する人口約 30,860 人（※2018 年 1 月時点）の地方都市である²。

また、上山市は、歴史ある温泉や良質な果物が四季を通して育つ気候と土地、そして樹氷で名高い蔵王連峰や里山などの自然環境に恵まれた場所にあり、1878 年に当地を訪れた英国人女性旅行家イザベラ・ルーシー・バードも上山の美しい景色と人々のもてなしに感動し、「健康的な保養地となるであろう」と称賛の声を残している³。

さらに、上山市には、長い歴史を持つ「かみのやま温泉」がある⁴。「かみのやま温泉」の歴史は、古く、2018 年には開湯 560 年を迎え、羽州街道の宿場町として出羽三山参詣者をはじめ多くの旅人の湯治場として親しまれ、今日まで人々の心身の健康を支え発展してきた⁵。

※ 筆者の許可なしの対外言及・引用は、お控え願います。本稿の全文または一部を引用・転載・複製する際には、必ず出所元を明記願います。

1 (大江 2015) 参照。

2 山形県上山市, <http://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/> (January 29, 2018) 参照。

3 (Bird 2005) 参照。バードは、1878 年 5 月から 12 月にかけて横浜—東京—北関東—会津—越後—山形—秋田—青森—北海道、そして、関西等を旅した。バードが日光から会津—新潟—小国（※山形県）を経て、山形県置賜地方の町村を訪問した際、自然に囲まれた美しい景観に感動し「もし、ここが外国人の容易に来られる場所であれば、美しい景色を味わいながら各方面にハイキングができるだろう。そして、彼らにとって健康的な保養地となるであろう」と記載した内容の手紙を英国の妹宛てに綴っていた。

4 2017 年 12 月 27 日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。「かみのやま温泉宿泊客」の利用者数は、2015 年度は、約 23 万人、2016 年度は、約 26 万人となっている。

5 山形県上山市, <http://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/> (January 29, 2018) 参照。

そして、上山市には、かつて上山市内の月岡・天神森に聳える壮麗な城郭から「羽州の名城」として広く知れ渡っていた上山城もあり、上山市は、かつての城下町としての面影も残している⁶。そうした点で上山市は、品質の高い農産物・雄大な自然・良質な温泉・風情のある旧宿場町および旧城下町等に恵まれた趣のある都市として発展してきた。

クアオルト (Kurort) とは、ドイツ語で、クア(Kur)「治療や療養、保養のための滞在」とオルト(Ort)「場所、地域」を合わせた「療養地」または「健康保養地」という意味のことである⁷。そのため、ドイツでは、クアオルトのことを「高品質な長期滞在型の療養地」として認識されている⁸。

他方、国内においては、クアオルトについては、(株)日本クアオルト研究所が商標登録をしている⁹。そのため、一般の企業や法人等が、クアオルトの名称を使用した各種企画や事業、各種プログラム等を行う際には、(株)日本クアオルト研究所からの承諾が必要となる。

上山市にて「健康増進プログラム」として実施されているクアオルトとは、ドイツのクアオルト (Kurort) (療養地・健康保養地) において心臓リハビリや高血圧等の治療として利用されている「気候性地形療法 (野山の傾斜地+冷気と風の活用)」の手法を用いながら、日本の気候に適合させた「健康ウォーキング」のことを意味している¹⁰。

よって、本章においては、「気候性地形療法」の手法による「健康ウォーキング」のことを「クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)」というものであり、国内において様々な取り組みが行われているクアオルトに関する各種企画や事業、各種プログラム等のことを「クアオルト」というものである。

(株)日本クアオルト研究所が示している「気候性地形療法」における4要素と効果については、図1のとおりである(別頁参照)。「太陽光」「可視光線」「清浄な空気」「冷気と風」が重要となる。

6 上山城は、かつて戦国時代には、伊達氏と最上氏がその地理的優位性を巡って激しく覇権を争っていた個所である。その後、江戸初期に最上氏が改易された後は、没落した諸大名が3万石から4万石で入部して城主を務める等、藩主がめまぐるしく変わったものの、上山藩自体は、幕末まで存続した。歴代藩主は、能見松平家2代(4万石)、蒲生家1代(4万石)、土岐家2代(2.5万石、後3.5万石)、金森家1代(3.87万石)と目まぐるしく藩主が入れ替わった後、藤井松平家が封じられた後は、その後明治維新まで藤井松平家が当地を治め、10代(3万石)藤井信安の代まで居城として用いられた。しかし、明治時代に入ると廃城令の影響で1873年より取り壊される等して廃城となった。城跡は、月岡公園および月岡神社境内となっていたが、1982年に二の丸跡に3層の模擬天守の現在の上山城が建立された。現在、模擬天守の内部は、郷土歴史資料館として利用されている。

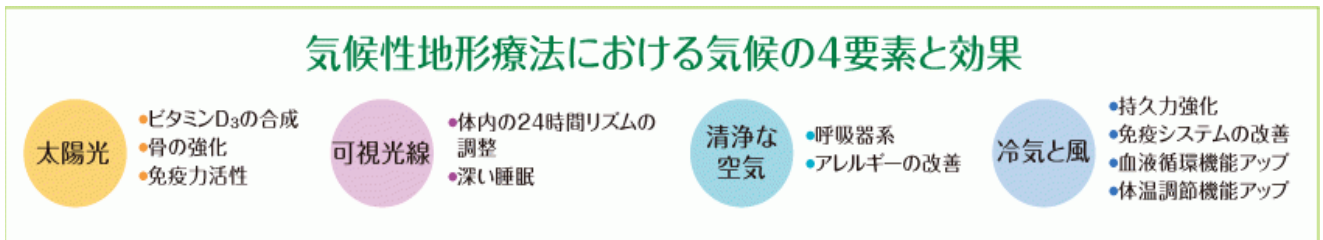
7 (上山市クアオルト推進室 2017) 参照。

8 (上山市温泉クアオルト協議会 2010) 参照。ドイツでは、治癒、緩和、予防に効果のある4つの自然の要素(土壌に由来する鉱泉、泥や気体)、海、気候、クナイプ式(水療法・運動療法・食事療法・植物療法・秩序療法の5本の柱)を活用し、医療保険が適用される統合医療である。

9 2018年1月19日、(株)日本クアオルト研究所所長の小関信行博士より聞き取り。この場合、「気候性地形療法」も商標登録されている。

10 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。

図1 「気候性地形療法」の4要素と効果



(出所) 上山市温泉クアオルト協議会(2010)をもとに筆者作成。

- ① 「太陽光」： ビタミン D3 の合成、骨の強化、免疫力活性
- ② 「可視光線」： 体内の 24 時間リズムの調整、深い睡眠
- ③ 「清浄な空気」： 呼吸器系、アレルギーの改善
- ④ 「冷気と風」： 持久力強化、免疫システムの改善、血液循環機能および体温調整機能アップ

実際、上山市には、「気候性地形療法（野山の傾斜地＋冷気と風の活用）」の世界的な権威であるドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン・健康・リハビリテーション学研究所（以下、「ミュンヘン研究所」という。）のアンゲラ・シュー教授によって認定された国内では唯一となる品質の高い5箇所8コースから成るクアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）・コース（以下、「ミュンヘン認定コース」という。）が存在している¹¹。

「ミュンヘン認定コース」以外にも上山市民の手により地域毎に整備されたコースである「クアの道コース」や「まちなかウォーキング」を利用したクアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）もある。そのため、クアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）は、上山市民の「健康増進プログラム」として大きく定着しており、それ以外にも地元の「かみのやま温泉」を訪れる観光客を対象としたクアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）を体験できるプログラムも用意している。

このように上山市では、クアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）を中心に「食・温泉」を組み合わせたクアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）体験プログラムにより「ヘルスケアビジネス」創出および「ヘルスツーリズム」を実践しようとしている。

また、将来的には、クアオルト健康ウォーキング（「気候性地形療法ウォーキング」）が「東北発・新型アグリツーリズム」として「ウェルビーイング・ツーリズム」の形により、発展する可能性がある。

11 日経 BP, <http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/news/062100354> (January 26, 2018) 参照。「そこに滞在することが人間の体にどう影響を与えるか？」という研究テーマ「医学的気候学」の世界的権威、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン・健康・リハビリテーション学研究所のアンゲラ・シュー教授の指導により、日本で唯一「ミュンヘン認定コース」に認定されている。もともと、上山市は、ドイツ南部にある Donaueschingen 市と 20 年前に友好都市盟約を締結しており、その縁でドイツのクアオルトと出会うことができた。

しかしながら、現状としては、上山市民のための「健康増進プログラム」として広く定着しているものの、「かみのやま温泉」の集客効果や観光客の長期滞在に繋げるための方策作りが今後の課題とされている。

よって、本章では、上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の特徴について論じると共に、それらに係わる諸課題や問題点等について分析し検証することで、「東北発・新型アグリツーリズム」として「ウェルビーイング・ツーリズム」の形態により、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の発展および地域活性化の可能性について論じるものである。

第2節 ドイツにおけるクアオルトの取り組み

先述のとおり、ドイツでは、健康増進のために野山を歩く「気候性地形療法」が活用されており¹²、老若男女が楽しみながら健康づくりに取り組んでいる。

ドイツにおいて気候性地形療法とは、「気候」のクアオルトで活用されており¹³、運動負荷が計測された自然の野山を歩いて治療する運動療法のことである¹⁴。ドイツでは、医療保険が適用される治療の場合は、3週間滞在できる¹⁵。

その特徴は、個人の体力に合わせた運動リスクの少ないウォーキングであり、運動負荷を心拍数(脈拍)の測定でコントロールされている。目標となる心拍数は、160-(マイナス)年齢で、運動負荷としては55~60%程度となり、全力の半分を少し超えた程度の強さで、苦しさが少ないものとなる¹⁶。ただし、血圧降下剤を服用する方は、160-年齢の数値から、10~20%減じた目標としている¹⁷。

12 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。気候性地形療法の要素は大きく分けて2つあり、1つ目は、運動強度が計測された自然の野山を患者の体力に合わせた運動強度で歩くことである。2つ目は、体表面を「少し冷たい」と感じる程度に発汗や衣類を調整して、気候の要素である「冷気と風」を活用しながら、運動効果を増すというものである。

13 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。「気候の要素」が人間に良い影響を及ぼし、「冷気と風」を上手に活用することで運動効果を増加させることができる。

14 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。患者は、最初に専門医の診察後、自転車エルゴメーターで各人の体力を測定する。そこで得られた体力の指標に合わせて、体力に合わせた専門コースの選定等1週間分の運動等の処方となされる。そして、その処方箋に基づいて、専門のガイドである「気候療法士」が、気候性地形療法の専門コースをガイドする。処方箋には、運動だけではなく、緊張を緩和する自律訓練やヨガ、水中運動等も処方され、「緊張と緩和」のバランスも調整しながら、治療をしている。

15 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。後述のとおり、ドイツでは、医療保険が適用されている。適応症は、主に心臓リハビリ(心筋梗塞や狭心症のリハビリテーション)、高血圧、骨粗鬆症等になっている。治療の場合は、3週間程度滞在して治療する。

16 (後藤・高橋 2015) 参照。

17 (後藤・高橋 2015) 参照。

もう一つのポイントは、運動中「やや冷える（運動時の体表面温度が、運動前に比較し平均 2 度低くなる状態）」と感じる服装で行うと運動効果が高まるという医科学的な根拠（エビデンス）を活用し¹⁸、汗を上手に揮発させて体表面の温度を下げて運動することである。暑い場合は、団扇や水を活用して、強制的にやや冷える状態にしている。ドイツでの適応症は、医療保険が適用され、心臓リハビリ（心筋梗塞や狭心症のリハビリテーション）や高血圧の治療、骨粗鬆症の治療などに利活用され、週 4 回の気候性地形療法のほか水中運動やヨガなどの緩和療法も合わせて処方されている¹⁹。

第 3 節 国内における健康への関心度合の向上

最近の傾向として、国内においては、国民による健康への関心が高まっており、その投資額が増えている点に着目したい。例えば、1 ヶ月あたりの健康への投資額についてみると、表 1 のとおり、2017 年時点で金額的に一番高いのが女性で 60 歳代の 5,127 円、男性で 60 歳代の 4,874 円となっている。

表 1 国内各年代層における1ヶ月あたりの健康への投資額

性別	10～20歳代		2017年 比 伸率 (%)	30歳代		2017年 比 伸率 (%)	40歳代		2017年 比 伸率 (%)	50歳代		2017年 比 伸率 (%)	60歳代		2017年 比 伸率 (%)	全年齢(平均)		2017年 比 伸率 (%)
	2017年	将来		2017年	将来		2017年	将来		2017年	将来		2017年	将来		2017年	将来	
男性	3,059円	3,448円	12.72%	2,539円	3,918円	54.31%	2,948円	3,835円	30.09%	3,415円	4,486円	31.36%	4,874円	5,813円	19.27%	3,367円	4,300円	27.71%
女性	2,118円	3,178円	50.05%	2,953円	3,782円	28.07%	3,621円	3,907円	7.90%	4,275円	5,293円	23.81%	5,127円	5,907円	15.21%	3,618円	4,413円	21.97%
全体	2,588円	3,313円	28.01%	2,746円	3,850円	40.20%	3,284円	3,871円	17.88%	3,845円	4,889円	27.15%	5,000円	5,860円	17.20%	3,492円	4,356円	24.74%

(注1) 日経流通新聞がリクルートライフスタイルによって実施された全国の10～60歳代の男女を対象(2,582人)に2017年9月に実施した調査結果について報道した記事に基づいている。

(出所) 日経流通新聞(2018)をもとに筆者作成。

将来においては、金額的に一番高いのが、女性で 60 歳代の 5,907 円、男性で 60 歳代の 5,813 円となっている。何れも 60 歳代の支出が高い。大手フィットネスクラブでは、日中の時間帯は、60 歳代以上の会員の男女が多く占めるといわれており²⁰、健康志向への関心が高いのと同時に社交場としての役割も果たしている²¹。60 歳代以上の男女については、定年退職後の団塊の世代でもあり、可処分所得が多く、時間を自由に使えることから長期滞在の旅行等が可能である。

18 (後藤・高橋 2015) 参照。体表面を「やや冷える」と感じるようにするために、歩行中、主観的な感覚で「やや冷える」（体表面温度を平均 2 度程度下げて温冷感覚で-1 と感じるように袖をまくり、首元を開ける等して衣服を調整する。）状態にする。時々腕に触れ、歩行中も汗が蒸発して「冷たくさらさら」な状態の肌を保つ必要がある。

19 (後藤・高橋 2015) 参照。

20 (経済産業省経済解析室 2015) 参照。

21 (経済産業省経済解析室 2015) 参照。

他方、10～20歳代については、女性が2017年時点では2,118円だったものが、将来においては、3,178円となり、2017年比伸率(%)では50.05%と高い伸び率を示している。また、30歳代においても男性が2017年時点では2,539円だったものが、将来においては、3,918円となり、2017年比伸率(%)では54.31%と高い伸び率を示している。

こうした傾向は、「ウェルビーイング・ツーリズム」若しくは「ヘルスツーリズム」への関心が高まっていることを意味している。

こうしてみると、そうした健康への関心が高い人達を対象とした需要を受けるためにも、上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)については、長期滞在型のクアオルト専用プログラムの導入を図ることで、新たな需要層開拓の取り組みが求められる。特にこうした需要層は、ニッチでプライオリティの高いものに惹かれる傾向があることから²²、全国で上山市にしかない「ミュンヘン認定コース」を活用することが有効といえる。

また、国民の「日ごろ関心を持っているもの」については、表2のとおり、高い順に「食事」82.2%、「旅行」79.0%、「健康・リラックス」74.7%となっている。そして、「以前よりも興味関心が高まっているもの」については、高い順に「健康・リラックス」が62.8%、「旅行」61.8%、「食事」59.5%となっている。

表2 国内における関心度合一覧表

項目	日ごろ関心を持っているもの	以前よりも興味関心が高まっているもの
食事	82.2%	59.5%
旅行	79.0%	61.8%
健康・リラックス	74.7%	62.8%
子供の学習	68%	56.0%
自己啓発	64%	44.0%
家電	64%	40.0%
ファッション	58%	40.0%
美容	44%	30.0%
マイカー	44%	28.0%
投資財テク	40%	30.0%

(注1) 日経流通新聞がリクルートライフスタイルによって実施された全国の10～60歳代の男女を対象(2,582人)に2017年9月に実施した調査結果について報道した記事に基づいている。

(出所) 日経流通新聞(2018)をもとに筆者作成。

つまり、最近の傾向として、国民全体が「健康・リラックス」に対する関心を高めつつある中で、「健康・リラックス」と同様に関心の高い「旅行」に対し影響を与えている。具体的には最近の傾向として、旅行は、「みる観光」から「体験する観光」にシフト化しつつあるといえる²³。

22 オフィス『仁』, <http://idegene.com/mktg/> (March 16, 2018) 参照。

23 (日経流通新聞 2018) 参照。

そして、実際には、その地域でしか体験できないことへのニーズが高まっており、健康志向と体験型観光を組み合わせた旅行である「ウェルビーイング・ツーリズム」若しくは「ヘルスツーリズム」への関心が高まっているともいえる。例えば、温泉地において呼吸法・瞑想法・ストレッチを組み合わせた「温泉深呼吸」を指南する現代湯治サービスや温暖な気候や海といった環境に医食同源の食文化を活かした健康プログラム等を提供するサービスへの人気も高まっている²⁴。

第4節 上山市におけるクアオルトの取り組み

(1) 「上山型温泉クアオルト事業」の展開

上山市では、2008年度の内閣府「地方の元気再生事業」を足がかりに、自然環境や温泉、食等の恵まれた地域資源を活かして、「市民の健康増進」と「交流人口の拡大」による地域活性化を目的に「上山型温泉クアオルト事業」を展開している²⁵。

長年、豊かな地域資源に囲まれた上山市では、滞在型の新たな健康保養地を目指し、「上山型温泉クアオルト事業」を市政の重要施策に位置付けている。

実際、上山市では、「質の高い健康保養地」として「地域資源」を磨きながら人々の「心と体がうるおうまち」を作り、高齢化社会の予防医療に対応する等、健康増進と生活の質の向上を図ると共に、歴史や伝統、日本的な温泉、文化を尊重しながら、里山等の恵まれた地域資源を磨き上げ、「住む人・訪れる人」全てが「心と体がうるおうまち」を作ろうとしている。

具体的には、表3のとおり、「市民の健康増進」と「交流人口の拡大」をより一層図るため、「健康」・「観光」・「環境」の3つの分野を柱に据え、「心と体がうるおうまち」を基本理念とした「まちづくり」の指針となる「上山型温泉クアオルト構想」を策定している²⁶。

24 (日経流通新聞 2018) 参照。

25 (上山市温泉クアオルト協議会 2010) 参照。上山市では、健康・環境・観光の三つの柱の下、全国に先駆けて官民一体となった「心と体がうるおうまち」づくりに取り組んでいる。具体的には、友好都市ドイツ・ドナウエッシンゲン市との国際交流、クアオルトを目指していた由布院温泉(大分県)との交流、ミュンヘン認定コースを利用したクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の実施、四季折々の地元食材を活かした栄養バランスに富んだ「クアオルト膳」等の食事の提供、温泉を活用した各種取り組み等がある。また、健康づくりに大切な三大要素である「運動・栄養・休養」を活かしながら、予防から治療まで地域資源を活かした総合的な健康づくりを推進している。さらに、「第7次上山市振興計画」で掲げる将来都市像では、「また来たくなるまち、ずっと居たいまちクアオルト上山」と題して、上山市全域が「健康保養地」という考えの下、「滞在するだけでも心も体も元気になれるまち」を目指して、クアオルト事業に何らかの形で関わる応援団を増やしながらか、「住む人・訪れる人」、そして地域を元気にする「日本一のクアオルト(健康保養地)」を50年若しくは100年かけて市民と共に、創ろうとしている。近年は、特定保健指導対象者や糖尿病予備群を対象にした「宿泊型新保健指導ツアー」や「福利厚生ツアー」等、県内外企業・事業所の健康経営等について地域を挙げて支援している。その他、高い品質に基づいた「ヘルスツーリズム」の推進、クアオルト事業を基盤とした新たな「ヘルスケア産業(健康寿命延伸)」の創出等にも取り組んでいる。

26 (上山市クアオルト推進室 2013) 参照。本構想を実現するためには、市民、企業・団体、関

表3 「上山型温泉クアオルト構想」の概要

【基本理念】 ・質の高い健康保養地として地域資源を磨きながら ひとびとの「心と体がうるおうまち」をつくる。 ・高齢化社会の予防医療に対応するなど、健康増進と生活の質の向上を図るとともに、歴史や伝統、日本的な温泉、文化を尊重しながら、里山等の恵まれた地域資源を磨き上げ、住む人・訪れる人すべてのひとびとの「心と体がうるおうまち」をつくる。			
3つの柱	①健康 地域資源を活用した健康増進策を確立し、ひとびとの心身の充実を図る。	②観光 恵まれた多くの地域資源を磨き、長期滞在型の観光都市を目指し、交流人口を拡大する。	③環境 自然環境の保全に努め、地域資源と調和した美しいまちづくりを推進する。
基本姿勢	主体	連携	創造
目標年度	2022年度		
実施方策	「心と体がうるおうまち」を実現するため、「健康」・「観光」・「環境」の3つの分野に位置付けた6つのリーディングプロジェクトを実施する。		
6つのリーディングプロジェクト			
No.	分類	プロジェクト名	主な内容
1	ウォーキング	クアオルトウォーキング3万人プロジェクト	ウォーキングの推進、クアオルトのPR
2	温泉	温泉健康施設プロジェクト	温泉健康施設の建設
3	健康	楽しくいきいき健康プロジェクト	医療機関等との連携による健康増進
4	観光	ワクワク温泉城下町プロジェクト	長期滞在の促進
5	食	かみのやまの食のブランド化プロジェクト	かみのやまの食のブランド確立
6	環境・景観	うるおい環境プロジェクト	自然環境保全、景観づくり

(出所) 上山市クアオルト推進室(2013)をもとに筆者作成。

(2) クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の品質担保

上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の品質担保については、高齢者を含め、参加者の安全を最優先するためにコース認定および専任ガイド講習を厳格にしている。専任ガイドについては、「蔵王テラポイント協会」を中心とした蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)が務めている²⁷。

また、品質担保が重要視されるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)における歩く時のポイントとしては、「頑張らない」「冷たくさらさら」を基準としながら、自分の体力にあわせて歩く速さを調整しながら個人の状態に応じた無理のない歩行、そして、汗を上手に蒸発させながら体表面は、冷たくさらさらに保つことを基本としている。

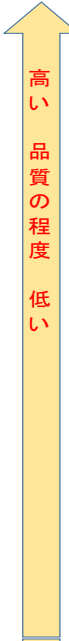
係機関等、全市を挙げての取り組みが必要としている。

27 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。退職された年配の方々を中心に構成されている。将来的には、若い人達を蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド))として登録していけば、色々なアイデアを出し合い、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の活力を高めることができると思われるが、専任ガイド業務だけでは、経済的に安定しないために、若い人達が蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド))として働いた場合、それだけでは、安定した収入を得ることが難しい。

実際、全国(上山市含む)におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)のコース種別については、表4のとおり、品質の高い順に「ミュンヘン認定コース」・「クアの道コース」・「まちなかコース」の大きく3つのタイプに分けられている。

表4 全国(上山市含む)における「クアオルト健康ウォーキング(気候性地形療法ウォーキング)」のコース別種類一覧表

クアオルト・コース種別	実施市町村	ガイドの種類	コース認定者	利用対象者	備考
ミュンヘン認定コース(5個所8コース)	山形県上山市	・蔵王セラポイト	アンゲラ・シュー教授(ドイツ・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン・健康・リハビリテーション学研究所)	・健康な人 ・健康に若干不安のある人	※上山市では、ミュンヘン認定コースにおいて「クアオルト健康ウォーキング(気候性地形療法ウォーキング)」の公式ガイドとして蔵王セラポイトだけが務めることができる。
「クアの道コース」	山形県上山市・山形県天童市・山形県西川町・秋田県三種町・石川県珠洲市・青森県青森市・岐阜県白川村・大分県由布市	・蔵王セラポイト ・クアオルトセラポイト ・クアオルト健康ウォーキング実践指導者/普及員	(株)日本クアオルト研究所所長・小関信行博士	・健康な人 ・健康に若干不安のある人 ・病気を抱えている人 ・障害のある人	※上山市では、「クアの道コース」において「クアオルト健康ウォーキング(気候性地形療法ウォーキング)」の公式ガイドとして蔵王セラポイトだけが務めることができる。
(都市型)「まちなかコース」(※増健目的)	山形県上山市・愛知県名古屋	・蔵王セラポイト ・クアオルト健康ウォーキング実践指導者/普及員	(株)日本クアオルト研究所所長・小関信行博士	・健康な人 ・健康に若干不安のある人 ・病気を抱えている人 ・障害のある人	※上山市では、「まちなかコース」において「クアオルト健康ウォーキング(気候性地形療法ウォーキング)」の公式ガイドとして蔵王セラポイトだけが務めることができる。



(注1) ドイツ国内において、クアオルトは、医療保険が適用されることから認定条件(※①専門医の存在・②良好な気候景観・③空気・静穏・④天然治療薬および自然療養プログラムの提供・⑤療養若しくは保養施設の整備)が厳しく約3%の374の自治体しか認められていない。

(注2) 蔵王セラポイトは、「気候性地形療法」を取り入れたクアオルト健康ウォーキングについて、ドイツと同様に、気候性地形療法や運動生理学、温泉療法や医学的な研修を受け、知識や技能を習得し試験に合格したガイドのことである。ミュンヘン認定コースでは、蔵王セラポイトのみがガイドを行える。

(注3) クアオルトセラポイトは、蔵王セラポイトと同様に気候性地形療法や運動生理学、温泉療法や医学的な研修を受け、知識や技能を習得し試験に合格したガイドのことであり、2016年6月30日より日本クアオルト研究所にて認定をしている。ちなみに「セラポイト」とは、ドイツ語で、「療法士(セラピスト)」の意味である。

(注4) 「クアの道コース」は、健康の道としてドイツのクアオルト(健康保養地)で実施されている気候性地形療法コースの基準を踏襲しており、日本の自然環境や気候、路面の傾斜や変化、安全対策等を具備したクアオルト健康ウォーキングの専用コースである。「クアの道コース」の認定については、ドイツにて気候性地形療法を研究し、気候性地形療法を見出したドイツ・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン・健康・リハビリテーション学研究所のアンゲラ・シュー教授から直接指導を受けた経験を持つ、国内で学術的に気候性地形療法のコースの調査を実施できる日本クアオルト研究機構事務局長兼日本クアオルト研究所所長の小関信行博士が行っている。当然ながら、上山市にある「クアの道コース」は、日本型クアオルト指標である「健康・医療・環境・景観・観光産業・計画連携」の6分野10項目の指標をもとにドイツの気候性地形療法コースに準じた形で調査設計が行われ認定されたものである。

(出所) (佐野 2013)および日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19,2018)参照。

上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の種類については、「ミュンヘン認定コース」・「クアの道コース」・「まちなかコース」等の全てのコースがある。具体的には、次のとおりである。

「ミュンヘン認定コース」(5個所8コース)は、先述のとおり、ミュンヘン研究所のアンゲラ・シュー教授によって認定された国内では唯一存在する品質の高い5個所8コースのことである²⁸(写真1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12参照)。

28 (Schuh 2008) 参照。

写真1. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真2. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真3. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真4. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真5. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真6. 上山市クアオルト健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(夏季)



(出所) 筆者撮影。

写真7. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)



(出所) 筆者撮影。

写真8. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)



(出所) 筆者撮影。

写真9. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)



(出所) 筆者撮影。

写真10. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)



(出所) 筆者撮影。

写真11. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)



(出所) 筆者撮影。

写真12. 上山市クアオ尔特健康ウォーキング「蔵王高原坊平コース」(冬季)

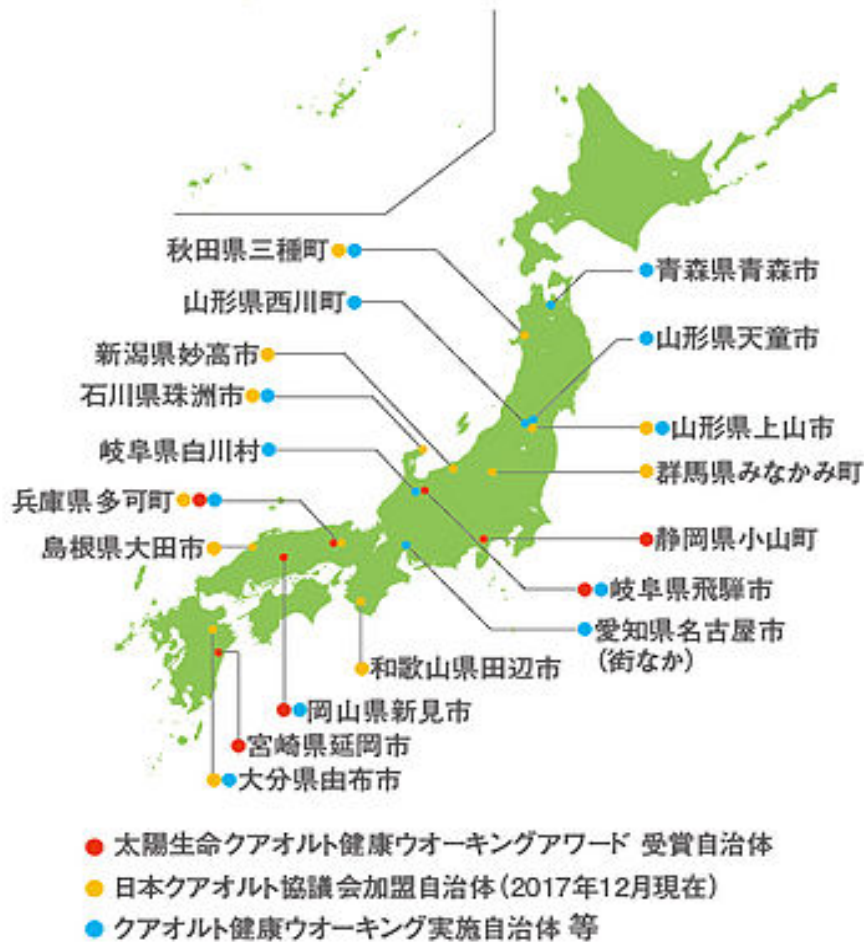


(出所) 筆者撮影。

最近では、図2のとおり、全国的にクアオルトが広がり、国内の各地域において、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を取り入れながら、それを目玉に観光客の増加を図ろうとする自治体も増えており、温泉・観光・クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)等を一体化させて活用する事例が増えている。

図2 クアオルト健康ウォーキング全国分布図

全国に広がるクアオルト、 クアオルト健康ウォーキング



(出所) 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19,2018)参照。

このようにクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を巡っては、競合する自治体が増えているものの、「ミュンヒェン認定コース」だけは、図3のとおり、国内では、上山市にだけある唯一のコースである²⁹。

29 特に「1,000m 準高山コース」である「蔵王高原坊平コース」および「お清水・樹水原コース」については、特別な景観と魅力を持つコースであり、大都市の大手フィットクラブと協力して専用クアオルト宿泊施設を整備してクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)

図3 クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)・「ミュンヒェン認定コース」の分布図



(注1) 上山市街地や上山温泉に近い「ミュンヒェン認定コース」の「平地の里山コース」の種類については、①「葉山コース」(走行距離2.6km・高低差129m・最高標高到達点319m)、②「西山コース」(走行距離3.1km・高低差110m・最高標高到達点295m)、③「三吉山山頂コース」(走行距離2.7km・高低差274m・最高標高到達点574m)、④「三吉山中腹コース」(走行距離1.8km・高低差150m・最高標高到達点450m)、⑤「虚空蔵山山頂コース」(走行距離5.1km・高低差170m・最高標高到達点354m)、⑥「虚空蔵山北堰コース」(走行距離3.7km・高低差86m・最高標高到達点354m)等がある。

(注2) 山岳地域の蔵王坊平にある「ミュンヒェン認定コース」の「1,000mの準高地コース」の種類については、⑦「蔵王高原坊平コース」(走行距離3.6km・高低差190m・最高標高到達点1175m)、⑧「お清水・樹氷原コース」(走行距離3.2km・高低差310m・最高標高到達点1440m)等がある。

(注3) 各コースは、1周約2~5km程度であり、運動負荷・熱条件・難易度等を計算して仕事率を算出し、「ミュンヒェン認定コース」として認定されている。「平地の里山コース」は、標高185m~573mであるのに対して、「1,000mの準高地コース」は、標高985m~1450mとなっている。

(出所) 上山市クアオルト推進室(2014)をもとに筆者作成。

他方、「クアの道コース」は、表4のとおり(別頁参照)、「健康の道」として、ドイツのクアオルト(健康保養地)で実施されている「気候性地形療法」のコースの基準を踏襲し、日本の自然環境や気候、路面の傾斜や変化、安全対策などを具備したクアオルト健康ウォーキングの専用コースである。

この「クアの道コース」の認定については、ドイツにて「気候性地形療法」を研究し、「気候性地形療法」を見出したミュンヒェン研究所アンゲラ・シュー教授の指導を得て、学術的に「気候性地形療法」のコースについての調査を実施できる日本クアオルト研究機構事務局長兼(株)日本クアオルト研究所所長の小関信行博士のみが行える³⁰。

「クアの道コース」は、極力、ドイツの「気候性地形療法」のコースに準じて調査設計して設定し、認定しているものであり、日本では、里山の地域を中心に青森市浅虫温泉、山形県上山市、同天童市、同西川町、石川県珠洲市、岐阜県白川村、大分県由布市等にて設定されており、年々その数が増えている。そして、そのガイドは、上山市認定の蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)の他に、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)と同一のカリキュラムにて教育を受け同一の品質で養成されたクアオルト・テラポイントとクアオルト健康ウォーキング実践指導者/普及員が務めることができる³¹。

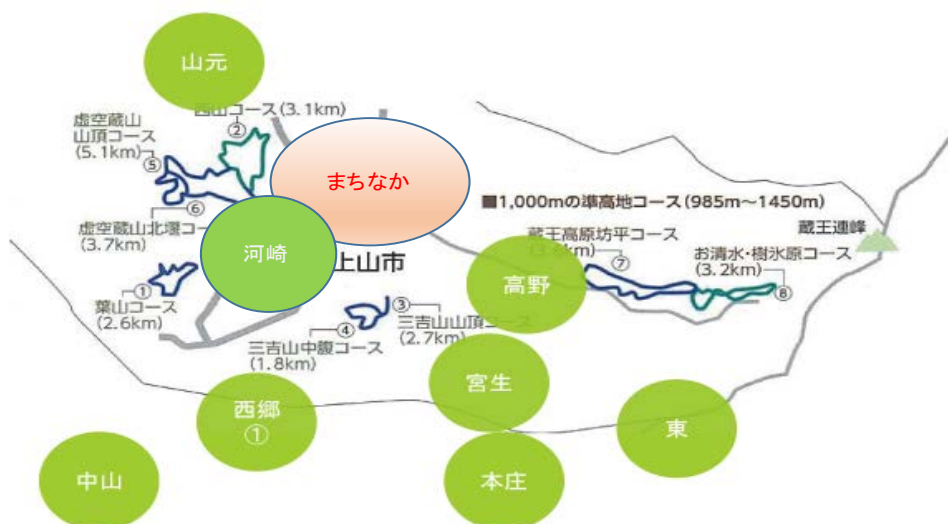
を発展させていけば、安定して集客を図れる可能性があるといえる。

30 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。

31 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。2016年6

実際、上山市の「クアの道コース」については、図4のとおり、上山市内には8地区に11コースがあり³²、市民にとって散歩に出かけるには丁度良いコースとなっている。

図4 上山市「クアの道コース」および「まちなかコース」の分布図



(注1) 上山市内には、「ミュンヘン認定コース」の他に、地域住民が発案して整備した「クアの道コース」がある。「クアの道コース」は、上山市内の8地区に11コースあり(※山元地区1コース・河崎地区1コース・高野地区1コース・宮生地区1コース・東地区3コース・本庄地区1コース・西郷地区2コース・中山地区1コース)、市民にとって散歩に出かける際には丁度良いコースとなっている。

(注2) 「クアの道コース」は、「ミュンヘン認定コース」とは異なり、地域住民だけが知る「お勧めスポット」に出会えるのも魅力の一つとなっている。「クアの道コース」の設定については、日本型クアオルト指標である「健康・医療・環境・景観・観光産業・計画連携」の6分野10項目の指標をもとに整備されている。

(注3) 上山市では、「ミュンヘン認定コース」や「クアの道コース」とは別に、商店街や歴史建造物等、市街地をウォーキングしながら満喫する「まちなかコース」を使ったウォーキングが不定期に行われている。「まちなかコース」は、上山市中心部の市街地の1地区に2コースがある。「まちなかコース」の設定については、「クアの道コース」と同様に日本型クアオルト指標である「健康・医療・環境・景観・観光産業・計画連携」の6分野10項目の指標をもとに整備されている。

(注4) 「まちなかウォーキング」については、かみのやま温泉商店街振興会の協力も得ながら商店街の魅力をさらに楽しめるイベントが企画されたりもしている。体験型のイベント等、上山市と地元商店街とが一緒に協力して企画・運営に取り組んでいる。

(出所) 上山市クアオルト推進室(2017)をもとに筆者作成。

さらに、「まちなかコース」については、表4のとおり(別頁参照)、都市型のウォーキングとして行われているものである³³。特に名古屋市では、市内の公園の中から「街なかスタイル」の健康づくりに適した複数のウォーキングコースを選び、「街なかウォーキング」として市民に対して積極的に身近なウォーキングを勧めている³⁴。

月30日より(株)日本クアオルト研究所が認定開始をしている。

³² 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。上山市の「クアの道コース」の内訳としては、山元地区1コース・河崎地区1コース・高野地区1コース・宮生地区1コース・東地区3コース・本庄地区1コース・西郷地区2コース・中山地区1コースとなっている。また、ミュンヘン認定コースとは異なり、地域住民だけが知る「お勧めスポット」に出会えるのも魅力の一つとなっている。

³³ 上山市では、季節毎に観光客や市民参加型の企画催しとして開催されることが多い、

³⁴ 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)参照。名古屋市

上山市にて行われている「まちなかウォーキング」については、図4のとおり(別頁参照)、上山市民や市民以外の人たちも参加できる催しとなっている。上山市内の中心部にある「まちなか」の2コース(※上山城を中心とした2.7kmと1.8kmの2コース)を楽しみながらウォーキングするイベントが不定期に実施されている³⁵。「かみのやま温泉商店街振興会」と連携して同商店街の魅力をさらに楽しめるためのイベントも行われている。

上山市の場合、「まちなかコース」の認定については、「クアの道コース」と同様にドイツで「気候性地形療法」を研究し、「気候性地形療法」を見出したミュンヘン研究所アンゲラ・シュー教授の指導を得て、学術的に「気候性地形療法」のコース調査を実施できる日本クアオルト研究機構事務局長兼(株)日本クアオルト研究所所長の小関信行博士のみが行えることになっている³⁶。

そして、そのガイドは、クアオルト健康ウォーキング実践指導者/普及員が務めている。「まちなかコース」については、「クアの道コース」と同じように日本型クアオルト指標である「健康・医療・環境・景観・観光産業・計画連携」の6分野10項目から成る「気候性地形療法」の基準に順じて整備されたものである。

(3) クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の主要種類別参加人数実績について

主要なクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の主要種類別参加人数実績(人数/年間)の状況については、表5のとおりである(別頁参照)。

「毎日ウォーキング」の参加者内訳の特徴としては、全体の50%が地元市民で、残り50%は市外からの参加者となっている³⁷。60代後半の年配の方の参加者が多く、特に女性が多い。リピーターが多いものの、新規参加者が少なく、参加者の裾野を広げる工夫を図ることが課題とされている³⁸。

では、「街なかウォーキング」と称している。

35 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)もガイドとして同行している。「毎日ウォーキング」と同様に参加チケットが必要である。ウォーキングパス(1か月間有効)が1枚2,000円、6枚8,000円となっている。回数券(4回分)2,000円、年間パス15,000円、市民限定おためし1回500円となっている。オプションとして、追加費用(参加費600円~/人)を支払えば、昼食付の場合もある。(2017年12月時点)

36 (上山市2014)参照。

37 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。

38 実際には、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)について熟知している人たちを除けば、「ミュンヘン認定コース」・「まちなかコース」・「クアの道コース」についての違いを理解している観光客である参加者は、少ない。上山市としても有料での参加が必要な「毎日ウォーキング」(※ミュンヘン認定コースを利用)・「着地型旅行商品ウォーキング」(※「暮色ウォーキング」・「空色ウォーキング」・「プライベートウォーキング」)や地元の「かみのやま温泉」の宿泊客向けのサービスとして行っている「早朝ウォーキング」(※蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)によるガイドはなし)等を観光客である参加者に対して推奨している。「早朝ウォーキング」については、「ミュンヘン認定コース」と「クアの道コース」を使用しているが、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)付のクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法

表5 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング「気候性地形療法ウォーキング」主要種別参加人数実績一覧表（人数/年間）

種類	蔵王テラポイト同行の有無	2009年	2010年	前年比伸率(%)	2011年	前年比伸率(%)	2012年	前年比伸率(%)	2013年	前年比伸率(%)	2014年	前年比伸率(%)	2015年	前年比伸率(%)	2016年	前年比伸率(%)
着地型旅行商品ウォーキング(※ミュンヒェン認定コース)	有			-	204	-	623	205.39%	373	-40.13%	449	20.38%	659	46.77%	843	27.92%
早朝ウォーキング「西山コース」(※ミュンヒェン認定コース)	無			-		-				-	208	-	368	76.92%	368	0.00%
早朝ウォーキング「高野コース」(※「クアの道」コース)	無			-	980	-	1,755	79.08%	1,377	-21.54%	1,621	17.72%	1,708	5.37%	1,708	0.00%
早朝ウォーキング「葉山コース」(※ミュンヒェン認定コース)	無		2,000	-	2,920	46.00%	2,920	0.00%	4,015	37.50%	4,015	0.00%	4,025	0.25%	4,015	-0.25%
出前講座ウォーキング(※「クアの道」コース若しくはミュンヒェン認定コース)	有		143	-	591	313.29%	218	-63.11%	757	247.25%	1,549	104.62%	1,334	-13.88%	1,338	0.30%
毎日ウォーキング(※「クアの道」コース若しくはミュンヒェン認定コース)	有	371	966	160.38%	2,174	125.05%	1,967	-9.52%	3,980	102.34%	5,025	26.26%	5,700	13.43%	5,311	-6.83%
合計		371	3,109	738.01%	6,869	120.94%	7,483	8.94%	10,502	40.35%	12,867	22.52%	13,794	7.20%	13,583	-1.53%

(注1) オーダーメイド型の着地型旅行商品ウォーキングについては、2017年1月～11月の間に800人程利用している。

(出所) 上山市クアオルト推進室(2017)をもとに筆者作成。

「着地型旅行商品ウォーキング」については、2011年には、204人/年間だったものが、東日本大震災後の2012年は、623人/年間と前年比伸率205.391%と増加したが、2013年には、373人/年間となり、前年比伸率で▲40.13%も減少した。2014年には、449人/年間となり、前年比伸率で20.38%と増加した。その後、2015年には、659人/年間となり、前年比伸率で46.77%と増加し、2016年には、843人/年間となり、前年比伸率で27.92%と増加する等、増加傾向にある。「着地型旅行商品ウォーキング」については、年によって参加人数の増減の変化がみられるものの、2014年以降は、参加人数が増加傾向にある。

「早朝ウォーキング」の「葉山コース」については、蔵王テラポイト(クアオルト認定ガイド)が同行しないものであるが、参加費が無料でもあり、「かみのやま温泉」の経営者がコーディネーターとなり、「かみのやま温泉」の宿泊客や地元市民が自由に楽しみながら参加できる環境も功を奏して、2010年には、2,000人/年間だったものが、翌年の2011年には、2,920人/年間と増加した。2013年には、4,015人/年間となり、前年比伸率で37.50%と増加した。365日開催している上山市クアオルトの「ミュンヒェン認定コース」を使用してもいることから一番人気があるようである。

「早朝ウォーキング」の「西山コース」については、「葉山コース」と同様に蔵王テラポイト(クアオルト認定ガイド)が同行しないものであり、参加費が無料で、温泉旅館の経営者がコーディネーターとなっており、「かみのやま温泉」の宿泊客や地元市民が自由に参加できる環境ではあるものの、土日祝日開催と限定されている。

ウォーキング)として実施しているわけではなく早朝の里山散歩といった意味合いが強い。また、「早朝ウォーキング」の専任ガイドは、蔵王テラポイト(クアオルト認定ガイド)ではなく、地元の温泉旅館の経営者がボランティアとして務めている。

また、冬季期間は、開催しないことから、2014年には、208人/年間であり、翌年の2015年には、368人/年間となっている。前年比伸率で76.92%と増加しているものの、全体的にみると参加者の数が少ないようである。

「早朝ウォーキング」の「高野コース」については、他のコースと同様に蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)が同行せずに、「クアの道コース」を使用している。地元住民を中心に有志で毎日早朝に定期的に行っているものである。当然参加費が無料であり、地元市民が自由に楽しみながら参加している。2011年には、980人/年間だったものが、翌年の2012年には、1,755人/年間と前年比伸率79.08%まで増加した。2013年には、1,377人/年間となり、前年比伸率で▲21.54%も減少したものの、翌年の2014年には、1,621人/年間まで増加した。2015年には、1,708人/年間となり、前年比伸率で5.37%と増加した。

これら「ミュンヒェン認定コース」と「クアの道コース」を使用した「早朝ウォーキング」については、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)が同行しないものの、地元の旅館経営者や地元市民が協力し合いながら実施しているものである。これは、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)が同行して科学的な見地からクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を実施しているわけではないものの、「早朝ウォーキング」全体の参加者数としては、全体的には、2016年で45.69%の比率を占めている。「早朝ウォーキング」については、全体的に、どのコースも参加人数が一定であり、年次によって参加人数の増減の変化がみられないようである。

「出前講座ウォーキング」については、2010年には、143人/年間だったものが、翌年の2011年には、591人/年間まで増加した。東日本大震災後の2012年は、218人/年間と前年比伸率▲63.11%まで減少したが、2013年には、757人/年間となり、前年比伸率で247.25%と増加した。2014年には、1,549人/年間となり、前年比伸率で104.62%と増加した。しかしながら、2015年は、1,344人/年間となり、前年比伸率▲13.88%と減少している。「出前講座ウォーキング」については、年によって参加人数の増減の変化がみられる。

「毎日ウォーキング」については、2009年にクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)がスタートした時点では、371人/年間だったものが、翌年の2010年には、通年で土日にも開催するようになり、966人/年間まで増加した。2011年からは、年間360日開催の「毎日ウォーキング」となり³⁹、参加者は、2,174人/年間となり、前年比伸率で125.05%と増加した。東日本大震災後の2012年は、1,967人/年間と前年比伸率▲9.52%まで減少したが、2013年には、3,980人/年間となり、前年比伸率で102.34%と増加した。その後、参加者は、増加するようになり、2015年には、5,700人/年間となり、前年比伸率で13.43%と増加した。しかしながら、2016年は、5,311人/年間となり、前年比伸率▲6.83%まで減少している。「毎日ウォーキング」については、2013年以降は、参加人数が増加傾向にあったものの、2016年は、減少している。

こうしてみると、「早朝ウォーキング」の参加者については、主に一般市民や「かみのやま温泉」の宿泊客等によって構成されており、近年では、参加人数の増減の変化がみられない。

39 蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)のガイド料金が有料であることから、割安感のあるウォーキングパスを保持したリピーターが多く参加する傾向にある。しかしながら、新規参加者の数が少ない。上山市では、「ふるさと納税」の寄附者に対して、「毎日ウォーキング」の無料体験券を配布する等して一般向けにクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の周知に努めている。

また、「出前講座ウォーキング」については、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を市民や企業に理解してもらう場を提供するものであり、一通り行えば、その目的が完遂することになる。よって、今後、参加人数が増加する可能性は、低いといえる。

それに対して、「着地型旅行商品ウォーキング」および「毎日ウォーキング」については、上山市外から集客を図ることで参加者を増やすことが可能である。

この場合、参加人数を増やすということは、上山市にて行っているクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の認知度が高まることを意味しており、極めて重要である。

しかしながら、表 3 にて示した「上山型温泉クアオルト構想」では(別頁参照)、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の参加人数目標を 3 万人としているものの、実際には、2016 年時点での合計人数は、表 5 のとおり(別頁参照)、13,583 人となっている。この数値では、参加人数目標となる数値の半分にも達していない⁴⁰。今後、参加人数目標の 3 万人に達するためには、もう少し新たな工夫と方策を練る必要がある。

(4) クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)企画の種類について

表 5 で示した以外のクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の企画の種類としては、表 6 のとおりとなる⁴¹(別頁参照)。

「企業コラボウォーキング」は、企業との共同企画による「社員」と「市民」が一緒に楽しむクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)である。会場は、「ミューンヒェン認定コース」や「クアの道コース」にて行われている。コラボを申し出た企業(以下、「コラボ企業」という。)の支援により豪華賞品が当たる抽選会が催されたりする場合もある。

この場合、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)も専任ガイドとして同行している。コラボ企業が協賛金という形で出資して参加者に楽しんでもらうものである。

これまで地元では、豆菓子で知られる(株)でん六、山形パナソニック(株)、サントリービバレッジソリューション(株)、ユトリアグループ(株)ヤマコー)等が「企業コラボウォーキング」を実施している。また、サンスター(株)では、健康を切り口に通販事業を展開していることから、その会員に向けた「クアオルト・プログラム体験ツアー」を開催している。

40 その内、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)が従事している「着地型旅行商品ウォーキング」、「出前講座ウォーキング」、「毎日ウォーキング」への参加者が 7,492 人となっていることから、全体の 55.16%の参加者が蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)によるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)のガイドを受けていることになる。

41 表 5 および表 6 の両方に含まれているクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の種類もある。

表6 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)企画の種類一覧表

種類	蔵王テラポイント同行の有無	窓口(事務局)	内容	料金	備考
着地型旅行商品ウォーキング	有		<p>・「暮色ウォーキング」は、主に上山市内の宿泊客を対象にチェックイン後の午後のひと時、自然を満喫してもらうものである。「ミュンヘン認定コース」や「クアの道コース」を利用し、専任ガイド(蔵王テラポイント)と歩くツアーである。当日の申込みも可能だが、上山市観光物産協会まで予約が必要であり、不特定2名以上の参加により催事が行われる。</p> <p>・「プライベートウォーキング」は、上記の「暮色ウォーキング」と同じ内容であるが、特定の人たちが集まり対象5名以上の参加により催事が行われる。開始時間帯も自由に相談できる。</p> <p>・「空色ウォーキング」は、夏場の特定の時期に「ミュンヘン認定コース」の「1000mの準高地コース」を対象としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を行うものであり、専任ガイド(蔵王テラポイント)と歩くツアーである。予約が必要であり、当日現地での申込みにより参加する。不特定1名以上の参加により催事が行われる。</p>	<p>①「暮色ウォーキング」(午後実施)は、一般2,600円/人、上山温泉宿泊者2,000円/人となっている。</p> <p>②「プライベートウォーキング」(時間帯は要相談)は、5名まで12,000円/一括となっている。</p> <p>③「空色ウォーキング」(夏場の企画として午前中に実施)は、一般2,600円/人、上山温泉宿泊者2,000円/人となっている。</p>	「ミュンヘン認定コース」と「クアの道コース」を使用している。
早期ウォーキング	無		<p>上山市内の「葉山」・「西山」・「高野」の3コースにて実施している参加料無料のウォーキングである。上山市内の旅館に宿泊した方や一般の方で朝の時間を有効に活用したい方を対象としている。地元住民と観光客と一緒に朝食前の1時間、賑やかに楽しく歩くことができる。しかしながら、これらの3コースについては、特段蔵王テラポイントがガイドとして同行しているわけではない。また、「葉山コース」・「西山コース」は、地元旅館の経営者がボランティアでガイドを務めている。「高野コース」については、地元住民を中心に有志で毎日早期に定期的に行っているものである。</p> <p>・「葉山コース」(※365日開催)は、「ミュンヘン認定コース」を使用している。</p> <p>・「西山コース」(※土日祝日のみ開催。冬季期間は閉鎖。)は、「ミュンヘン認定コース」を使用している。</p> <p>・「高野コース」については、「クアの道コース」を使用している。地元住民を中心に有志で毎日早期に定期的に行っているものである。</p>	一般市民・来訪者・上山温泉宿泊者の参加可(無料)	「ミュンヘン認定コース」と「クアの道コース」を使用している。
出前講座ウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	企業行事やPTA行事などの団体、町内会・地区会等からの要請により、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)についての説明や実際に体験会等を開催してのウォーキング体験を行っている。会場は、「ミュンヘン認定コース」や「クアの道コース」にて行われている。蔵王テラポイントもガイドとして同行している。	講師派遣料は無料だが、座学のための会場費や弁当費等については、実費負担となっている。	「ミュンヘン認定コース」と「クアの道コース」を使用している。
毎日ウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	主に「ミュンヘン認定コース」を舞台に年間360日開催している申込不要の気軽なウォーキングメニューである。毎日9時頃に指定会場に集合して専任ガイド(蔵王テラポイント)が案内している。	ウォーキングパス(1か月間有効)が1枚2,000円、6枚8,000円となっている。回数券(4回分)2,000円、年間パス15,000円、市民限定おためし1回 500円となっている。	「ミュンヘン認定コース」と「クアの道」を使用している。蔵王テラポイントのガイドによるクアオルト健康ウォーキングの実施であり、蔵王テラポイントの技能を示す真骨頂ともいえる。
まちなかウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	上山市民や市民以外の人たちも参加できる。上山市内の中心部にある「まちなか」の2コース(※上山城を中心とした2.7kmと1.8kmの2コース)を楽しみながらウォーキングするイベントを不定期に実施している。かみのやま温泉商店街振興会が中心となって同商店街の魅力をさらに楽しめるためのイベントも行われている。蔵王テラポイントもガイドとして同行している。	「毎日ウォーキング」と同様に参加チケットが必要である。オプションとして、追加費用(参加費600円~/人)を支払えば、昼食付の場合もある。	「まちなか」コースを使用している。
企業コラボウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	企業との共同企画による社員と市民と一緒に楽しむクアオルト健康ウォーキングである。会場は、「ミュンヘン認定コース」や「クアの道コース」にて行われている。コラボを申し出た企業の支援により豪華賞品が当たる抽選会が開催されたり、グルメ企画の催しも行われている。蔵王テラポイントもガイドとして同行している。	コラボ企業が協賛金という形で出資してクアオルト健康ウォーキングを参加者に楽しんでもらうもの。イベントとして抽選会が行われる場合もある。費用については、弁当費用等や一部参加費等を参加者が負担する場合もある。	これまで地元企業等を中心に、参加者が「コラボウォーキング」と称したクアオルト健康ウォーキングを体験できる機会を提供している。
企業健保ウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	企業健保組合との共同企画による社員とその家族が一緒になってクアオルト健康ウォーキングを楽しむものである。会場は、「ミュンヘン認定コース」にて行われている。蔵王テラポイントもガイドとして同行している。	企業健保組合と参加者が費用負担している。	企業の健康保険組合等が中心となり従業員で特定保健指導対象者に対して、1泊2日や2泊3日でクアオルト健康ウォーキングを体験させている。この場合、宿泊費は、個人負担であり、クアオルト健康ウォーキングの関連費は、企業負担となっている。例えば、首都圏に本社がある企業の従業員が上山市にて1泊2日の「ミュンヘン認定コース」を利用したクアオルト健康ウォーキングを体験した場合、宿泊や交通などの費用等の大半を企業が補助しており、従業員の個人負担を抑制しようとしている。上山市の方でも宿泊費の割引や一部プログラムの無償化・割引等、インセンティブを用意している。
健康増進事業ウォーキング	有	上山市クアオルト推進室	上山市民を対象にした「クアオルト健康講座」(※年1度市民向けに募集してメンバー選定し、2回/月のペースで年間20回以上開催している。一度メンバーに登録された人は、次年度以降は申し込み不要。)による上山市型クアオルトと国民健康保険加入者で特定保健指導対象者のための上山市型クアオルトを実施している。過去には、上山市内にある精神科病院に通所されている精神病患者を対象としたクアオルト健康ウォーキングを実施した時もあった。蔵王テラポイントもガイドとして同行している。	「クアオルト健康講座」参加者および国民健康保険加入者で特定保健指導対象者に対してのクアオルト健康ウォーキングに関係する費用は、無料となっている。上山市にて負担している。	「ミュンヘン認定コース」と「クアの道コース」を使用している。

(注1) 料金およびサービス等については、変更されている場合もある。

(出所) 上山市クアオルト推進室(2017)をもとに筆者作成。

「企業健保ウォーキング」は、企業健保組合との共同企画による「社員」と「その家族」が一緒になってクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を楽しむものである。会場は、「ミュンヒェン認定コース」にて行われている。蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)も専任ガイドとして同行している。企業健保組合と参加者が費用負担している。

損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険(株)では、上山市との間で、2017年6月24日付にて「上山型温泉クアオルト(健康保養地)活用に関する包括的連携協定」を締結している。2017年度には、同社の「社員」が上山市にて1泊2日の「ミュンヒェン認定コース」を利用したクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)や食事等のプログラムを体験し、上山市の地域資源を活かして、「社員自身」が健康維持・増進の実践的な知識を身に付けられることを目的としている。同社としては、職場単位での参加を推奨することで、社内コミュニケーションの活性化にも繋がりたいと考えているようである。

この場合、宿泊や交通などの費用等の大半を会社が補助し、同社の「社員」の負担を抑えようとしている。上山市も宿泊料の割引や一部プログラムの無償化・割引等、インセンティブを用意している。

「健康増進事業ウォーキング」は、上山市民を対象にした「クアオルト健康講座」(※年1度市民向けに募集してメンバー選定し、2回/月のペースで年間20回以上開催している。一度メンバーに登録された人は、次年度以降は申し込めない。)による国民健康保険加入者で特定保健指導対象者のためのクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を無料で体験できる環境を整えている。

過去には、上山市内にある精神科病院に通所されている精神患者を対象としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を実施した時もあった。蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)も専任ガイドとして同行している。この場合、「クアオルト健康講座」の参加者および国民健康保険加入者で特定保健指導対象者に対してのクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)に関係する費用は、上山市が負担し無料となっている。

(5) 上山市における「ヘルスケアビジネス」創出

上山市においては、「ヘルスケアビジネス」創出事業についての事業実績は、特にないが、クアオルトについての「ヘルスケア」のビジネスモデルについては、2016年度に首都圏の企業を対象に情報発信をしている⁴²。都内で2回シンポジウムを開催し、ワークショップも2回開催している。そして、上山市にて現地ワークショップも実施している。行政と民間による関係者間のネットワーク形成が重要であるため、現在は、様々な連携の可能性について模索している状況である⁴³。

2016年度に実施された「地域と企業が協働するヘルスケア産業の創出協働企業とのコンテンツ開発ワークショップ」については、東京にて計2回開催されている⁴⁴。

42 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。

43 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。

44 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。山形県内2企業、県外1企業等、計37人参加している。

2016年9月26日の開催時には、38団体70名の参加があり、2016年10月21日の開催時には、30団体50名の参加があった。その後、現地案内も含めて上山市にて連携ワークショップが開催されている⁴⁵。

上山市で実施している「宿泊型新保健指導試行事業」(スマート・ライフ・ステイ)については、2015年度に厚生労働省の補助事業に採択されたことから、国からの補助金により、「楽しみながら生活習慣の改善につながる健康への気付きの旅」を提供した。その結果、2015年度には4ツアーを開催した⁴⁶。

また、2016年度からは、上山市の予算にて企業経営者を受け入れての現地での「宿泊型新保健指導試行事業」(スマート・ライフ・ステイ)の「体験ツアー」を実施しており、2016年度には、6ツアーを開催している⁴⁷。そして、2017年度は、9ツアーを実施している⁴⁸。

その他の中には、上山市在住で国民健康保険加入者している要健康支援者も含まれている。その場合、一人当たり9,800円の負担金を頂いており、残りの費用は、上山市が負担している。1回当たりの定員は、最大12名であり、1泊2日の場合、個人負担が6~7万円、2泊3日の場合、個人負担が10万円~となっている。その受入れ旅館は、5箇所となっている。2014年度にプログラム開発を行い、2015年度に試行的に実施し始めた。特定保健指導対象者・糖尿病予備群等を対象に、旅館等の宿泊施設や地元の観光資源を活用し、運動や食生活の「体験型」の保健指導を行うことで、将来的な重症化予防、医療費適正化を目指すものである。

「宿泊型新保健指導試行事業」(スマート・ライフ・ステイ)について、参加企業側からは、「非日常という環境」が参加者の表情と健康づくり意欲を向上させており、「顔のみえる保健指導」が宿泊後の継続的な実践につながっているといった感想が寄せられている。

そして、「参加者自身の行動変容による職場や家族への波及効果」も大きいとしている。そのため、今後、上山市としては、地元における新たな保健指導業務を担う受託機関を確保したいと考えている。

実際には、「参加者自身の行動変容による職場や家族への波及効果」の特徴としては、次のとおりである。

- ① 地域内の多職種の連携によるコンソーシアム体制での受入
- ② 「上山型温泉クアオルト事業」を柱にした運動・休養・栄養プログラムの実施
- ③ 地域資源を活用した観光プログラムを提供により楽しみながら生活習慣の改善につながる「健康への気付きの旅」の提供

45 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。計3回開催している。2016年11月30日の開催時には、14団体18名の参加があり、2016年12月15日の開催時には、7団体9名の参加があり、2017年1月11日の開催時には、7団体8名の参加があった。運営団体としては、上山市温泉クアオルト協議会 から委託を受けたNPO法人ミラツクが行っている。

46 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。山形県内2企業、県外1企業等、計37人参加している。

47 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。山形県内1企業、県外3企業等、計56人参加している。

48 2017年12月時点において、2017年度の参加者の内訳については、愛知県から1団体、東京都から2団体、埼玉県から1団体、山形県から1団体、その他一般市民(※個人)等となっている。

(6) 上山市におけるクアオルトを中心とした「健康」・「観光」・「交流(広域連携)」に係わる企画検討について

上山市では、将来都市構想として、「第7次上山市振興計画」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しており、この中でクアオルトを中心とした「健康」・「観光」・「交流(広域連携)」に係わる企画検討が行われている。

山形県内に本店がある(株)山形銀行では、上山市と「観光物産協定」を締結している。そのため、(株)山形銀行でも同行の山形成長戦略室を中心にクアオルトに関しており、(株)山形銀行の行員が上山市に出向もしている。

(株)山形銀行では、例えば、「ヘルスツーリズム」の普及拡大、ワインの郷プロジェクト、県内企業を対象とした「ヘルスケアビジネス」の売り込み等について支援している⁴⁹。

全国的に次世代型の「ヘルスケアビジネス」が着目されている。次世代型の「ヘルスケアビジネス」を成功させていくためには、「地域の金融機関」、「経済団体」、「ヘルスケア」等関連の専門人材との協力体制を構築していくことが重要とされている⁵⁰。

「上山型温泉クアオルト事業」を基盤としたビジネスモデルの構築については、「ヘルスツーリズム」の普及拡大をテーマとしているが、課題としては、①「地域側におけるワンストップ窓口やコーディネート機能の強化」、②「健康経営および健康に関心の高い企業・個人の活躍に向けたアプローチ」等があげられる⁵¹。

また、今後も上山市では、「ヘルスツーリズム」および「ヘルスケアビジネス」を発信していきたいとしている⁵²。

(7) 国内におけるクアオルトについての連携・支援体制

上山市を含めた国内におけるクアオルトについての連携・支援体制については、図5のとおりである(別頁参照)。

この場合、クアオルトに関する学術研究の支援機関である日本クアオルト研究機構、クアオルトを実施する自治体の広域連携機関である日本クアオルト協議会(全国9つの市町が集まって設立)、クアオルトに関する実務支援機関である(株)日本クアオルト研究所等の3つの組織によって連携および支援等が広く行われている。

特に日本クアオルト協議会では、「日本型クアオルト指標」を定めている。そして、質の高い健康保養地を目指すために、日本型のクアオルト指標として、6領域60項目を示しながら滞在型の健康保養地を目指すために定められたものである。これらは、「健康」、「観光」、「地域づくり」のテーマに主眼を置いている。

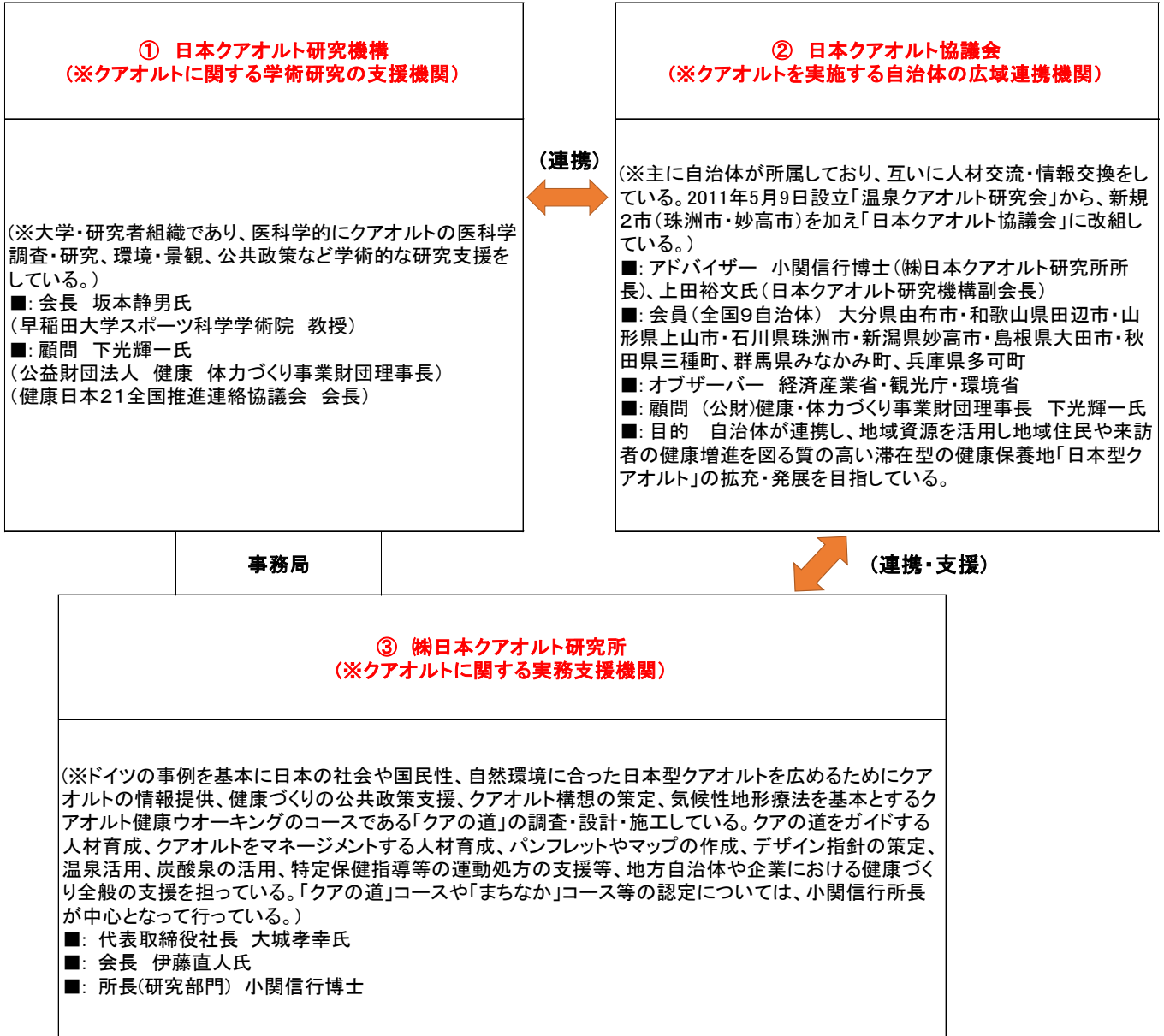
49 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。(株)山形銀行によるクアオルトに関係する健康産業分野への直接的な投資等は行われていない。

50 経済産業省, http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/ (March 19, 2018)参照。

51 (厚生労働省2016)参照。

52 (へるすあっぷ21編集部2017)参照。

図5 国内におけるクアオルトについての連携・支援体制



(注1) 日本型クアオルト指標とは、日本クアオルト研究所所長の小関信行博士が中心となって作成された健康・医療・環境・景観・観光産業・計画連携の6分野10項目に基づき指標を設定し、各地域で自己評価を行い、現状把握と事業推進に活用している。

(出所) 日本クアオルト研究所, <https://www.kurort-japan.com/> (January 19, 2018)他、各種資料をもとに筆者作成。

(8) 上山市とのクアオルト活用包括的連携協定について

実際、上山市による県内外企業・事業所等の健康経営支援としては、温泉地を活用した新たな取り組みとして企業等の健康経営の一環として、「社員」および「顧客」等を対象にクアオルト体験プログラムの積極的な活用を図っている。そして、「健康への気付きの旅」として「ヘルスツーリズム」を提供すると共に、誘客促進による地域活性化に繋げようとしている。

また、誘客促進による地域活性化に繋げるために生命保険会社や損害保険会社等を中心に、次の3社との間で「クアオルト活用包括的連携協定」を締結している⁵³。

(上山市とのクアオルト活用包括的連携協定締結企業)(2018年2月時点)

- ① 太陽生命保険(株)(本社東京都) 2016年10月3日締結
- ② 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険(株)(本社東京都) 2017年6月24日締結
- ③ 東京海上日動火災保険(株)(本社東京都) 2018年2月13日締結

さらに、上山市とクアオルト活用包括的連携協定締結企業の間で締結された「クアオルト活用包括的連携協定」の具体的な内容としては、次のとおりである。企業および事業所等の健康経営について地域を挙げて応援し、「社員」の幸せづくりと企業の発展、地域活性化に向けての取り組み等を行うものである。

- ① 「社員」における「クアオルト体験プログラム」の積極活用
(例:「福利厚生旅行」、「宿泊型新保健指導」(スマート・ライフ・ステイ))
- ② 「運動」・「休養」・「栄養」等に係わるプログラムに対するインセンティブの付与
(例:「宿泊」・「クアオルト体験プログラム」等の料金割引、「クアオルト膳」の提供(受入8旅館))
- ③ 「顧客」、「代理店」、「取引法人」等に対する各種アプローチ(※今後予定)

「クアオルト活用包括的連携協定」の締結に伴い、「行政」、「検診センター」、「温泉旅館組合」、「観光物産協会」等、多職種および他業種による連携のもと、地域資源を活かした「保健指導プログラム」を展開しており、特定保健指導対象者を受け入れている。

本プログラムの特徴は、「地元」をフル活用した「保健指導プログラム」である。このプログラムは、上山市周辺で採れる地元産の野菜・果物を中心にした栄養バランスに優れた「クアオルト膳」や「クアオルト弁当」等のメニュー(食事)の提供、上山市周辺の里山・山岳の地形を活かしたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の提供、上山市にある温泉を活用したリラクゼーション(休養)の提供等で構成されており、上山市の保健師・管理栄養士・健康運動指導士等が協力して指導にあたっている⁵⁴。

53 太陽生命, <https://www.taiyo-seimei.co.jp/company/notice/> (March 29, 2018) 参照。その中でも太陽生命保険(株)では、本協定書の締結に伴い「社員」の健康寿命延伸を目的とした「太陽の元気プロジェクト」を推進している。例えば、「健康寿命の延伸」という社会的課題に応えるために、「従業員」「お客様」「社会」の全てを元気にする取り組みを行っている。また、太陽生命保険(株)では、全国のクアオルト振興のために表彰制度を設けており、全国的なクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の発展のために協力している。

54 (へるすあっぷ21編集部2017) 参照。

(9) 上山市における温泉健康施設プロジェクト

表 3 にて説明したとおり(別頁参照)、6つのリーディングプロジェクトの一つでもある温泉健康施設プロジェクトとして、上山市では、新たな温泉健康施設の建設が計画されている。現在、源泉の掘削工事を進めている⁵⁵。その具体的な内容としては、次のとおりである。

【上山市温泉健康施設の整備】

- ◆ 整備目的…若い人からお年寄りまで、幅広い世代の市民が健康づくりに取り組めるクアオルト構想のシンボル施設の設置
- ◆ 施設概要…次のとおり
敷地面積 9,037 m²/床面積 2,093 m²
運動浴プール(温泉活用)/浴室/
ジム・スタジオ/更衣室/医務室/
事務室/多目的ホールほか
- ◆ 2017年度事業…温泉掘削工事(※上山市弁天地区にて計画)
最短で2021年度に完成予定
厚生労働省大臣認定の温泉健康施設を目指す(※ハード面・ソフト面である程度具体化しないと認定されない。)

実際、温泉健康施設については、表 7 のとおり(別頁参照)、現在、全国に 21 施設あり⁵⁶、その中で指定運動療法施設となっているのは、全国に 3 施設しかない⁵⁷。

東北地方 6 県および新潟県(以下、「東北圏」という。)には、温泉健康施設として 7 施設(※青森県 1 施設・岩手県 1 施設・秋田県 1 施設・山形県 2 施設、福島県 2 施設)がある中で指定運動療法施設となっているところはない。また、宮城県と新潟県には、温泉健康施設がない。山形県内には、天童市と村山市の 2 施設がある。この 2 施設は、山形県内でも最も人口が多い県庁所在地でもある山形市にも近く、もし、上山市にて温泉健康施設を建設した場合、同じ山形県村山地方にある上記施設と競合する可能性が高い。

55 2017年3月2日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。

56 連携型施設・温泉施設については、1施設としてカウントした。

57 厚生労働省、<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/undou04/> (January 29, 2018) 参照。厚生労働省では、国民の健康づくりを推進する上で適切な内容の施設を認定しその普及を図るため「健康増進施設認定規程」を策定し、運動型健康増進施設、温泉利用型健康増進施設、温泉利用プログラム型健康増進施設の 3 類型の施設について、大臣認定を行っている。また、運動型健康増進施設及び温泉利用型健康増進施設の内、一定の条件を満たす施設を指定運動療法施設として指定している。

表7 温泉健康施設一覧表 (2017年10月25日現在)

整理番号	施設名	所在地	電話番号	※指定
1	豊富町ふれあいセンター(連携型施設・温泉施設)	北海道天塩郡豊富町字温泉	0162-82-1777	
	豊富町温泉自然観察館(連携型施設・運動施設)	北海道天塩郡豊富町字温泉	0162-82-1001	
2	バーデハウスふくち	青森県三戸郡南部町大字苦米地字上根岸73-1	0178-84-2850	
3	健康増進施設 はなまき	岩手県花巻市石鳥谷町松林寺3-81-13	0198-46-1212	
4	秋田県健康増進交流センターユフォーレ	秋田県秋田市河辺三内字丸舞1-1	018-884-2111	
5	クアハウス基点	山形県村山市基点1034-7	0237-56-3351	
6	ラ・フォーレ天童のぞみ	山形県天童市大字道満197-2	023-656-8322	
7	いわき市健康・福祉プラザ	福島県いわき市常磐湯本町上浅貝22-1	0246-43-0801	
8	リステル猪苗代シーズ	福島県耶麻郡猪苗代町川桁リステルパーク	0242-66-2233	
9	サンバレー・アクアヴィーナス	栃木県那須郡那須町大字湯本203	0287-76-3800	
10	マホロバマインズ三浦	神奈川県三浦市南下浦町上宮田3231	0468-89-8900	
11	江の島アイランドスパ	神奈川県藤沢市江の島2-1-6	0466-29-0688	
12	クアハウス津南	新潟県中魚沼郡津南町大字芦ヶ崎203	0257-65-3711	
13	富山県国際健康プラザ	富山県富山市友杉151	076-428-0809	○
14	クアハウス九谷	石川県能美市泉台町東10	0761-58-5050	
15	クアハウス石和	山梨県笛吹市石和町八田330-5	055-263-7071	
16	クアハウスかけゆ	長野県上田市鹿教湯温泉1293	0268-44-2131	○
17	神戸みなと温泉 蓮	兵庫県神戸市中央区新港町1-1	078-381-7000	
18	ピーアップ新宮	和歌山県新宮市蜂伏13-36	0735-31-7268	○
19	くらはし温水プール ウイングくらはし	広島県呉市倉橋町ゴクラク550番地	0823-50-2018	
20	クアハウス今治	愛媛県今治市湯ノ浦36	0898-47-0606	
21	温泉療養文化館 御前湯(連携型施設・温泉施設)	大分県竹田市直入町大字長湯7962-1	0974-64-1400	
	竹田市直入B&G海洋センター(連携型施設・運動施設)	大分県竹田市直入町大字長湯8208-4	0974-75-2243	

温泉健康施設 (合計) 21

内指定運動療法施設 (内訳計) 3

内連携型施設 2

(注1) 温泉健康施設は、温泉療養費が所得税における医療費控除の対象となる。

(注2) 「指定」とは、運動型の指定運動療法施設の指定を受けている施設のことである。

(出所) 厚生労働省, <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/undou04/02.html> (January 26, 2018)参照。

他方、上山市内には、これまで市民によく利用されてきた公衆浴場が複数あったが、利用者数の減少等に伴い廃止になる公衆浴場も出ている⁵⁸。そのため、上山市では、市民に対して、計画中の温泉健康施設の利用コンセプトを十分に説明し理解させていかないと、折角、温泉健康施設が完成しても上山市民による利用者数を確保することが難しくなる恐れがある。

第5節 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の発展と課題

(1) 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の目的別区分

現在、上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を目的別に区分すると、図6のとおり(別頁参照)、大きく3つのタイプに分けることができる。

一つ目は、Aタイプ(市民向健康増進・国保特定保健指導)であり一般市民の健康増進を目的としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)である。参加者の対象は、上山市民他、近隣市町村の住民となる。該当する種別としては、「毎日ウォーキング」、「まちなかウォーキング」、「早朝ウォーキング」、「出前講座ウォーキング」、「企業コラボウォーキング」(企業スポンサーによるイベント型)、「健康増進事業ウォーキング」等となる。

二つ目は、Bタイプ(観光)であり、観光客を対象とした心身のリフレッシュと健康増進を目的としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)である。参加者の対象は、観光客となる。該当する種別としては、「毎日ウォーキング」、「まちなかウォーキング」、「早朝ウォーキング」、「着地型旅行商品ウォーキング」、「企業コラボウォーキング」(企業スポンサーによるイベント型)等となる。

58 (上山市 2016) 参照。上山市で一般的に「共同浴場」と呼ばれているのは、公衆衛生法に基づき認可された「公衆浴場」として民間運営の「下大湯共同浴場」、「二日町共同浴場」、「新丁共同浴場」、「新湯共同浴場」、「湯町共同浴場」、市営の「中湯」、上山市社会福祉協議会が運営する「寿荘」の計7施設であった。その内、民間運営浴場5施設のうち2施設が2003年度以降の単年度経常収支が赤字となっており、市営の「中湯」および上山市社会福祉協議会が運営する「寿荘」も赤字となっていた。「湯町共同浴場」については、2016年11月に閉鎖となり、市営の「中湯」についても2017年度中に廃止が決まっている。上山市における公衆浴場の利用者数をみると2000年は、481千人いた利用者が2015年には、225千人まで減少している。上山市が2014年に実施した「公衆浴場の利用調査」によると市民利用が85%であり、市外の人々の利用が13%となっている。利用者の18%が自宅に風呂設備がない人たちであり、利用者の30%が心身のリフレッシュと健康増進を目的に公衆浴場を利用している。これまで民間運営の公衆浴場が組織する「共同浴場組合」に対して毎年200万円程度の運営補助金を交付してきたが、2017年度以降は、交付していない。しかしながら、運営者が主体となって取り組む「公衆浴場の魅力を高めてより多くの利用者と呼び込む事業」や「施設・設備の大規模な改修事業」等については、その費用の一部を上山市にて支給することになっている。

三つ目は、Cタイプ(企業向健康増健・特定保健指導)であり、企業健康保険組合の組合員とその家族の健康増健を目的としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)である。参加者の対象は、企業健康保険組合の組合員とその家族となる。該当する種別としては、「企業健保ウォーキング」等となる。

図6 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の目的別区分

(現在)		(将来)				
Aタイプ (市民向健康増健・国保特定保健指導)	(一般市民健康増健目的のためのクアオルト)(対象:上山市民他) (種別) ・毎日ウォーキング ・まちなかウォーキング ・早朝ウォーキング ・出前講座ウォーキング ・企業コラボウォーキング(企業スポンサーによるイベント型) ・健康増進事業ウォーキング	(継続)	Aタイプ (市民向健康増健・国保特定保健指導)	(一般市民健康増健目的のためのクアオルト)(対象:上山市民他) (種別) ・毎日ウォーキング ・まちなかウォーキング ・早朝ウォーキング ・出前講座ウォーキング ・企業コラボウォーキング(企業スポンサーによるイベント型) ・健康増進事業ウォーキング	(追加利用)	厚生労働省認定の温泉健康施設(クアオルト構想のシンボル施設)
Bタイプ (観光)	(観光目的のクアオルト)(対象:観光客他) (種別) ・毎日ウォーキング ・まちなかウォーキング ・早朝ウォーキング ・着地型旅行商品ウォーキング ・企業コラボウォーキング(企業スポンサーによるイベント型)	(継続)	Bタイプ (観光)	(観光目的のクアオルト)(対象:観光客他) (種別) ・毎日ウォーキング ・まちなかウォーキング ・早朝ウォーキング ・着地型旅行商品ウォーキング ・企業コラボウォーキング(企業スポンサーによるイベント型)	(追加利用)	厚生労働省認定の温泉健康施設(クアオルト構想のシンボル施設)
Cタイプ (企業向健康増健・特定保健指導)	(企業向健保組合増健および特定保健指導目的のクアオルト)(対象:企業従業員・健保組合員他) (種別) ・企業健保ウォーキング	(継続)	Cタイプ (企業向健康増健・特定保健指導)	(企業向健保組合増健および特定保健指導目的のクアオルト)(対象:企業従業員・健保組合員他) (種別) ・企業健保ウォーキング	(追加利用)	厚生労働省認定の温泉健康施設(クアオルト構想のシンボル施設)

(出所) 上山市クアオルト推進室(2017)および2018年2月5日上山市観光物産協会からの聞き取りをもとに筆者作成。

(2) 「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」

上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)は、市民向けの「健康増進プログラム」として定着しているものの、それを活かした「ヘルスツーリズム」および「ウェルビーイング・ツーリズム」としての観光客への集客効果には、あまり至っていない。

特に、上山市内では、一般企業が主体となって「ウェルビーイング・ツーリズム」による形態により、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)について一年を通して導入した事例はない。

その理由としては、次の課題が存在しているからだともいえる。

- ① 「上山型温泉クアオルト事業」については、観光客を相手にした場合、その収入源は、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)による体験料だけであり、経済効果が低い。

- ② 観光客を対象としたクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)については、短期間の滞在に限られており、「ウェルビーイング・ツーリズム」として長期滞在のプログラムに対応できる宿泊施設や長期プログラム、そして、それらを総合的にコーディネートできる人材が存在しない。

しかしながら、上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)については、次のとおり、上山市にだけにある利点もある。

- ① 国内では上山市にしかない「ミュンヘン認定コース」(※5 箇所 8 コース) が整備されている。
- ② クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」) を熟知したインストラクターとして蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)(※ドイツにて研修を受けた人たち) が上山市内に揃っている。
- ③ ミュンヘン研究所等の学術機関と連携して健康増進効果について科学的根拠を示したエビデンスが揃っている。

現在、自治体が連携し、地域資源を活用し地域住民や来訪者の健康増進を図るために質の高い滞在型の健康保養地としての日本型クアオルトの拡充・発展が進んでいる。

その結果、全国各地でクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」) を活かした市民の増健活動と観光効果への取り組みが進み、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)自体が珍しくなくなっている。そのため、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)について、観光客等の外部参加者をより多く引き入れるためには、新たな工夫と方策を考える必要がある。

そこで、上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の課題と利点を踏まえながら、将来の上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)として、図 6 で示した 3 つのタイプに加えて(別頁参照)、図 7 のとおり、新タイプ(案) を追加することを提唱したい。

図7 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の新タイプ(案)

(将来)	
新規	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p style="text-align: center;">新タイプ (案)</p> <p>(「ミュンヘン認定コース」の「1,000mの準高地コース」において特別クアオルト・プログラムを提供する。)(対象:長期クアオルト体験希望者他)</p> <p>(種別) ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング(仮称)</p> <p>①心身のリフレッシュと健康増健を目的として長期滞在可能な「ウェルビーイング・ツーリズム」を提供する。</p> <p>②大手フィットネスクラブ(※会員に働きかけ安定して参加者を誘致できる)と提携し、別途設置したミュンヘン型蔵王高地ウォーキング専用宿泊施設等に参加者が1週間程度滞在できるようにする。</p> <p>③ミュンヘン型蔵王高地ウォーキングに適した特別プログラムを用意し、それに参加して長期滞在してもらう。</p> <p>④参加者は、「健常者」であり、特定保健指導対象者とは異なり、それほど「食」の制限を受けないことを前提としている。そのため、「地消地産」を鑑みながら、上山市地元食材を使った料理・飲物(日本酒・上山ワイン)も提供し賞味できるようにする。</p> <p>⑤蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)についても、宿泊施設において参加者をもてなすためのコンシェルジュとしてレベルアップさせる。</p> <p>⑥厚生労働省認定の温泉健康施設(クアオルト構想のシンボル施設)については、オプションとして利用する機会を設けることにする。</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="background-color: #e0f2f1; text-align: center;">(追加利用)</p> <p>厚生労働省認定の温泉健康施設(クアオルト構想のシンボル施設)</p> </div> </div>

(出所) 上山市クアオルト推進室(2017)および2018年2月5日上山市観光物産協会からの聞き取りをもとに筆者作成。

この新タイプ(案)は、「ミュンヒェン認定コース」のうち「1,000m の準高地コース」である「蔵王高原坊平コース」と「お清水・樹氷原コース」を活用し、心身のリフレッシュと健康増健を目的として「長期滞在可能なウェルビーイング・ツーリズム型」のクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を提供するものである(以下、「(仮称)「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」という。))。

よって、対象となる参加者は、新タイプの「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に興味を持ち長期滞在可能な人たちとなる⁵⁹。

この場合、ミュンヘン型蔵王高地ウォーキングは、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)が盛んなドイツのミュンヒェン研究所から日本で唯一認定された「ミュンヒェン認定コース」の一部を利用するものであり、そうした点では、高いプライオリティを有している。

そして、高山特有の広大で美しい自然景観も有していることから、長期間の滞在には最適である。そうした点から考慮して、会員を対象に「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」への参加者を安定的に誘致できる大手フィットネスクラブと提携して集客を図ることも一つの方法である⁶⁰。

「ミュンヒェン認定コース」の「1,000m の準高地コース」である「蔵王高原坊平コース」と「お清水・樹氷原コース」の2コースについては、高山地域でもあることから、大自然も楽しみ、日常生活とは異なる異質空間を提供できる。こうした潜在的な商品価値を活かすために、新たに「民間ベース」若しくは「官民連携ベース」にてコンソーシアムを組織し、参加者に対して全国から参加者を図り、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」を提供すべきである。そして、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムを用意すると共に、高い「ホスピタリティ」を兼ね揃えた「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」用の専用宿泊施設を設置し⁶¹、参加者が1週間程度の長期滞在をできるようにする⁶²。

59 この場合の対象者は、都市部に住み、時間的な余裕がある大手フィットネスクラブの会員や訪日外国人、金銭的に余裕のある高齢者等となる。

60 ZUU, <https://zuuonline.com/archives/161358> (March 9, 2018)参照。経済産業省によると、2016年のフィットネスクラブ業界の市場規模は、3,282億円で前年比2.3%増となっている。利用者数の合計は、2億4,818万人で同2.6%増であった。近年の健康志向の高まりとシニア世代のスポーツクラブへの関心の高まりにより業界は、売上、利用者数とも堅調な推移になっている。2015～2016年の上場企業のフィットネスクラブ売上高ランキングでは、首位がコナミスポーツ(コナミHDの子会社)712億円(市場占有率23.2%)、2位がセントラルスポーツ516億円(市場占有率16.8%)、3位がルネサンス434億円(市場占有率14.2%)、4位が日本テレビHD363億円(市場占有率11.9%)、RIZAPグループ293億円(市場占有率9.6%)となっている。都市部にある大手フィットネスクラブは、会員間の「社交場」としての意味合いも強く、高齢者を中心に平日でも早朝から大変込み合っている。また、会員は、経済的に余裕がある人達が多く、健康への関心が人一倍高く、旅行等にも頻繁に出かけることから、こうした会員に対してクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を紹介していけば、安定して参加者を募ることができる。

61 ソフト面では、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)のスタッフは、基本的に温かくもてなす誠意に溢れていることから、コンシェルジュとしての役割を果たせる可能性が高い。また、周辺の「気候」、「地形」、「地理」、「歴史文化」、「名産品」等についての知識も豊富にあり、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)についての専門家でもある。ハード

この場合、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムへの参加者は、「健常者」であることを前提とし、特定保健指導対象者等とは異なり、それほど「食」の制限を受けないことにする。そのため、参加者は、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」用の専用宿泊施設において長期滞在しながら、上山市の地元食材を使った「料理」や「飲物(日本酒・上山ワイン)」等を提供し賞味できるようにする⁶³。

当然ながら、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の専任ガイドである蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)についても「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムを提供する立場から、コンシェルジュとして更にレベルアップしなければならない。

例えば、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」を進めていくためには、次の点に留意していかなければならない。

- ① 「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムについて専門的にコーディネートする運営団体等が選定される⁶⁴。
- ② 「ミュンヒェン認定コース」のうち「1,000mの準高地コース」である「蔵王高原坊平コース」と「お清水・樹氷原コース」の近くに「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」用の専用宿泊施設を用意する⁶⁵。

面では、既存の宿泊施設を改修してアメニティを高める方法や新たにアメニティの高い宿泊施設を建設する方法が考えられる。

62 2017年7月9日、蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)より聞き取り。また、(大江 2003)、(千葉 2011)、(白井 2010)参照。1週間程度の期間があれば、ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキングにより心身共に、十分な効果を得られる。実際には、ミュンヒェン認定コースのうち「1,000mの準高地コース」である「蔵王高原坊平コース」と「お清水・樹氷原コース」は、蔵王国定公園の中にある。この周辺では、地元企業が大型ロッジやスキー場等の他に広大な土地も所有しており、現在も周辺の観光開発等を行っている。もし、ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキングに適した特別プログラムを提供するために長期滞在型の宿泊施設等を建設して、全国から集客を図る計画を推進させる場合、初めに上山市と協議し、次に、この地元企業と協議する必要がある。

63 2017年12月27日、上山市クアオルト推進室より聞き取り。実際、上山市内にある旅館や料理店では、地元の豊富な食材を活かして健康に良い影響を与える「お膳」や「特製弁当」を企画販売し提供している。例えば、2017年12月時点で、上山市内の8旅館・1店舗にて「クアオルト膳」を提供しており、市内4業者により、「クアオルト弁当」の提供をしている

64 例えば、ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキングに適した特別プログラム等を監修する(株)日本クアオルト研究所、実際に本プログラムを参加者に実施させてコーディネートを行う蔵王テラポイント(クアオルト認定ガイド)、健康増進や旅行に関心が高い会員を多く抱えており本プログラムへの参加者を集客する大手フィットネスクラブ、総合的に本プログラムを支援する地元自治体や地元関係団体等があげられる。

65 蔵王坊平は、大自然の景観は良いが近くに温泉がない。少し離れたところに「蔵王温泉」(山形市)がある。「かみのやま温泉」は、市街地に近いため里山の風景はあるが、大自然の景観はない。この場合、「ホスピタリティ」を重視するのであれば、景観にマッチした新築の宿泊施設が望まれるが、蔵王坊平付近にある既存の宿泊施設やペンションをミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング専用施設として借り受けて再活用しても良い。その定員は、20人~30人程の定員とする。

- ③ 「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムへの参加者は、1 週間程度の「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムを受講しながら、現地に長期滞在する。この場合、春夏秋冬の季節毎の景観の変化の中で「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」を楽しめるように工夫することで季節毎に来訪するリピーターを期待できる。
- ④ 主な参加対象者は、健康への関心が高く金銭的にも時間的に余裕のある客層とする(別頁・表 8 および表 9 参照)。
- ⑤ 大手フィットネスクラブと提携して「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」への参加者の募集を図ってもよい。フィットネスクラブ会員は、健康増進に対する意識および関心が高い。得に金銭的にも時間的に余裕のある年齢の高い客層の場合、1 週間程度の長期滞在を可能とする。
- ⑥ 参加者は、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラム後に宿泊施設にて地元の食材を活かした「郷土料理」を堪能できるようにする。そのため、食事は、地元にて農家レストランを営んでいる方々を招聘して地元の食材を活かした「郷土料理」を提供してもらうことになる。この場合、参加者にとっては、食事が「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラム後の楽しみとなり、季節毎に旬を迎える食材を使った「郷土料理」を期待して来訪するリピーターも見込まれる。

この場合、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」については、参加者が地元の「かみのやま温泉」に宿泊せずに「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」専用宿泊施設に長期滞在することから、上山市内の関係者等から不満が出る恐れがある。

そうした点については、図 6 にて示したとおり(別頁参照)、既存の A タイプ(市民向健康増健・国保特定保健指導)・B タイプ(観光)・C タイプ(企業向健康増健・特定保健指導)を活かしながら、図 7 にて示した新タイプを追加する形をとる(別頁参照)。

また、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムの内容も既存タイプのプログラムの内容と区別し差別化を図ることで、既存タイプと新タイプが競合しないようにする。

実際には、「ミュンヒェン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムの一環として、「かみのやま温泉」や温泉健康施設(計画中)を利用させる等の工夫を図ることで、地元への経済的な相乗効果も期待できるようにする。

第 6 節 上山市におけるクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)導入の背景

上山市では、山形県内でも高水準にある市民一人当たりの医療費や高齢化率、さらには観光で訪れる年間宿泊者数の減少等もあり、市民の健康寿命の延伸のみならず地域活性化等、「まち全体」を再生させようとしている。

そうした背景には、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を導入する要因ともなった上山市における高齢化問題と医療費負担の増加問題等があげられる。

上山市では、他の山形県内の市町村と同様に高齢化率が高まっており、高齢者人口の増加が社会問題となっている。それに伴って国民健康保険加入者の加入者(被保険者)の高齢化や治療に要する費用の高額化等、様々な要因から、上山市においては、その運営について大変厳しい状況が続いている。

実際、上山市では、「上山型温泉クアオルト事業」を重要事業と位置付けているが、そうした背景にあるのは、一人当たりの医療費の増加や高齢化率の上昇等の問題に対処するためでもある⁶⁶。

上山市における高齢化率の特徴についてみてみると、2016年における高齢化率は、36.3%であり⁶⁷、山形県内全13市の中で2番目に高いことが特徴である⁶⁸。

また、上山市における国民健康保険の医療費の推移をみると、高齢化率が高いことを反映しており、60歳以降に急激な医療費の増加がみられる。その原因としては、退職を機に国民健康保険に加入した人が加入前にすでに何らかの病気を持っているケースが多いと推測されている⁶⁹。このような現状は、健康長寿の最大の阻害要因となるだけでなく、国民医療費にも大きな影響を与えていることから、「生活習慣病」や「ロコモティブ・シンドローム」等の予防が行政上の重要な健康増進のための課題となっている⁷⁰。

66 日経BP, <http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/PPP/news/062100354> (January 26, 2018)参照。上山市は、温泉でも有名であるが、温泉自体を売りにする市町村は、全国に数多くある。そうした中で2007年に横戸上山市長が就任した時は、1人当たりの医療費や高齢化率が山形県内でも高水準であった。横戸上山市長自らがこの問題に対処するための方策を検討していたところ、当時ドイツでクアオルトを研究・調査をしていた上山市役所の元職員であった小関信行博士（現・榊日本クアオルト研究所所長）がクアオルトの考え方を披露してくれた。その結果、2008年、内閣府が募集した地方の元気再生事業に応募し、採択されたことがきっかけで、2009年度には、上山市役所内にクアオルト準備室を立ち上げた。クアオルトは、自然の力を利用して健康を増進させるというドイツの考え方に基づくものであり、「健康」「観光」「環境」の三つを柱にした官民一体となった「まちづくり」を展開することにより、市民の健康増進を図ることができると共に、健康に興味がある市外の人や企業を引き付けて交流人口の拡大にも貢献できるものと考えた。

67 (山形県健康福祉部健康長寿推進課 2017) 参照。「高齢化率」とは、65歳以上人口が総人口に占める割合のことを意味する。

68 (山形県健康福祉部健康長寿推進課 2017) 参照。山形県全市町村の中では、12番目に高い。

69 (後藤・高橋 2015) 参照。

70 (後藤・高橋 2015) 参照。「生活習慣病」という用語は、従来用いられていた「成人病」対策が二次予防（病気の早期発見・早期治療）に重点を置いていたのに加えて、生活習慣の改善を中心とした一次予防（健康増進・発病予防）に重点を置いた対策を推進するために新たに導入された概念である。例えば、「生活習慣病」の「代表格」としては、糖尿病、高血圧、脂質異常症等があげられる。「ロコモティブ・シンドローム」とは、関節や筋肉・骨など運動器の障害のために移動機能が低下した状態のことであり、要介護や寝たきりになるリスクが高くなる。高齢者がいつまでも元気に過ごすためには、「ロコモティブ・シンドローム」予防がとても大切となる。

(1) 上山市における人口構成について分析

最近の上山市における高齢化の状況については、上山市の人口構成について分析した結果として、表8のとおりとなる。

表8 上山市における人口構成比較一覧表(人)

年齢別	2000年度	年齢別人口構成比率	2005年度	年齢別人口構成比率	前回比伸率(%)	2010年度	年齢別人口構成比率	前回比伸率(%)	2013年度	年齢別人口構成比率	前回比伸率(%)	2015年度	年齢別人口構成比率	前回比伸率(%)	(2015年度対2000年度比伸率(%))	2030年度(将来推計)	年齢別人口構成比率	(※予想)(2030年度対2015年度比伸率(%))	(※予想)(2030年度対2000年度比伸率(%))
0歳～14歳	5,008	13.58%	4,450	12.36%	-11.14%	3,776	11.16%	-15.15%	3,422	10.42%	-9.38%	3,224	10.23%	-5.79%	-35.62%	2,009	8.03%	-37.69%	-59.88%
15歳～64歳 (※生産年齢人口)	22,482	60.96%	21,306	59.16%	-5.23%	19,455	57.51%	-8.69%	18,753	57.10%	-3.61%	17,162	54.48%	-8.48%	-23.66%	12,446	49.73%	-27.48%	-44.64%
65歳以上	9,391	25.46%	10,256	28.48%	9.21%	10,600	31.33%	3.35%	10,669	32.48%	0.65%	11,118	35.29%	4.21%	18.39%	10,572	42.24%	-4.91%	12.58%
計	36,881	100.00%	36,012	100.00%	-2.36%	33,831	100.00%	-6.06%	32,844	100.00%	-2.92%	31,504	100.00%	-4.08%	-14.58%	25,027	100.00%	-20.56%	-32.14%

(出所) 地域医療情報システム(日本医師会)<http://jmap.jp/cities/detail/city/6207> (January 26, 2018)および上山市(2014)をもとに筆者作成。

0歳～14歳の人口が2000年度には、5,008人(年齢別人口構成比率13.58%)であったものが、2005年度には、4,450人(同12.36%)と前回比伸率▲11.14%となり、2015年度には、3,224人(同10.23%)と前回比伸率▲5.79%となり、2015年度対2000年度比伸率(%)では、▲35.62%となっている。2030年度(将来推計)には、2,009人(同8.03%)と前回比伸率▲37.69%となり、2030年度対2000年度比伸率(%)では、▲59.88%も減少する見込みとなっている。

また、15歳～64歳(※生産年齢人口)の人口が2000年度には、22,482人(同60.96%)であったものが2005年度には、21,306人(同59.16%)と前回比伸率▲5.23%となり、2015年度には、17,162人(同54.48%)と前回比伸率▲8.48%となり、2015年度対2000年度比伸率(%)では、▲23.66%となっている。2030年度(将来推計)には、12,446人(同49.73%)と前回比伸率▲27.48%となり、2030年度対2000年度比伸率(%)では、▲44.64%も減少する見込みとなっている。

さらに、65歳以上の人口が2000年度には、9,391人(同25.46%)であったものが、2005年度には、10,256人(同28.48%)と前回比伸率9.21%となり、2015年度には、11,118人(同35.29%)と前回比伸率4.21%となり、(2015年度)対2000年度比伸率(%)では、18.39%となっている。2030年度(将来推計)には、10,572人(同42.24%)と前回比伸率▲4.91%となり、2030年度対2000年度比伸率(%)では、12.58%増加する見込みとなっている。

このように0歳～14歳(若年層人口)の人口および15歳～64歳(※生産年齢人口)の人口が減少していくようになり、それに伴い同も減少していく中で、逆に65歳以上人口および同が増加していくことになる。

人口計についても2000年度には、36,881人であった人口が、2015年度には、31,504人となり、前回は伸率▲4.08%となり、2015年度対2000年度比伸率(%)では、▲14.58%となっている。2030年度(将来推計)には、25,027人と前回は伸率▲20.56%となり、2030年度対2000年度比伸率(%)では、▲32.14%も減少する見込みとなっている。

(2) 上山市における一人当たり医療費の負担状況

上山市における一人当たり医療費の負担状況については、表9のとおりである。

表9 上山市における一人当たり医療費の負担状況一覧表

種別	2009年度	2010年度	前回は伸率(%)	2011年度	前回は伸率(%)	2012年度	前回は伸率(%)	2013年度	前回は伸率(%)	(2009年度対2013年度比伸率(%)
上山市国民健康保険加入者	312,520円	338,549円	8.33%	333,257円	-1.56%	336,178円	0.88%	353,627円	5.19%	13.15%
山形県国民健康保険加入者(平均)	289,058円	301,516円	4.31%	310,619円	3.02%	322,986円	3.98%	332,347円	2.90%	14.98%
上山市後期高齢者医療	907,289円	926,818円	2.15%	903,858円	-2.48%	894,527円	-1.03%	937,321円	4.78%	3.31%
山形県後期高齢者医療(平均)	766,758円	782,378円	2.04%	788,164円	0.74%	788,177円	0.002%	801,236円	1.66%	4.50%

(注1) 2008年4月から「老人保健制度」が廃止され、代わりに始まったのが「後期高齢者医療制度」である。75歳以上の方が加入する医療制度であり、75歳の誕生日を迎えると、それまで加入していた国民健康保険や被用者保険(健康保険や共済組合等)から後期高齢者医療制度に移行する。

(注2) 国民健康保険加入者の場合、誕生日と同時に自動的に国民健康保険から脱退し、後期高齢者医療制度に加入となる。運営は、各都道府県に設置された後期高齢者医療広域連合にて行っている。

(出所) 地域医療情報システム(日本医師会), <http://jmap.jp/cities/detail/city/6207> (January 26, 2018)参照、上山市(2014)をもとに筆者作成。

上山市でクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)が始まった2009年度の上山市国民健康保険加入者(一人当たり)が312,520円であり、上山市後期高齢者医療費(一人当たり)が907,289円だったものが、「上山型温泉クアオルト事業」として、市民向けの主要メニューである「毎日ウォーキング」が本格的に始まり、その参加者(※計6,665人)が増えた2011年度の上山市国民健康保険加入者(一人当たり)は、333,257円となり、前回は伸率▲1.56%となっている。そして、上山市後期高齢者医療費(一人当たり)は、903,858円となり、前回は伸率▲2.48%となり、両方とも減少している。

第7節 むすび

本章では、現状としてクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)が上山市民のための「健康増進プログラム」として広く定着させながら、「かみのやま温泉」の集客効果や観光客の長期滞在に繋げるための方策作りが今後の課題とされている点に着目した。

また、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)を中心にしながら、「ヘルスケアビジネス」の創出および「ヘルスツーリズム」を実践しようとしている点も踏まえながら、その特徴および諸課題や問題点等について分析し検証したものである。

さらに、将来的には、「東北発・新型アグリツーリズム」として「ウェルビーイング・ツーリズム」の形態により、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)が発展する可能性についても示した。

上山市では、クアオルト事業を実施する自治体の広域連携機関である日本クアオルト協議会、クアオルトに関する学術研究の支援機関である日本クアオルト研究機構、クアオルトに関する実務支援機関である(株)日本クアオルト研究所等の3つの組織等とも連携しながら「ヘルスツーリズム」および「ヘルスケアビジネス」に取り組んでいる。

実際、上山市による県内外企業・事業所等の健康経営支援としては、温泉地を活用した新たな取り組みとして企業等の健康経営の一環で「社員」および「顧客」等に対してクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の積極的な活用を通しての「健康への気付きの旅」として「ヘルスツーリズム」を提供すると共に、誘客促進による地域活性化に繋げようとしている。

具体的には、上山市では、損害保険会社等を中心に3社との間で「クアオルト活用包括的連携協定」を締結しており、「行政」、「検診センター」、「温泉旅館組合」、「観光物産協会」等、多職種および他業種による連携のもと、地域資源を活かした「保健指導プログラム」を展開している。

それに加えて上山市では、「ウォーキング」(クアオルトウォーキング3万人プロジェクト)、「温泉」(温泉健康施設プロジェクト)、「健康」(楽しくいきいき健康プロジェクト)、「観光」(ワクワク温泉城下町プロジェクト)、「食」(かみのやまの食のブランド化プロジェクト)、「環境・景観」(うるおい環境プロジェクト)といった6つのリーディングプロジェクトの総体として新たに厚生労働省大臣認定の温泉健康施設の建設を目指している。

他方、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)については、「市民向けの健康プログラム」として定着しているものの、それを活かした「ヘルスツーリズム」および「ウェルビーイング・ツーリズム」としての観光客への集客効果には、あまり至っていない。

特に、上山市内では、一般企業が主体となって「ウェルビーイング・ツーリズム」の形態により、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)について一年を通して導入した事例はない。そのため、本章では、将来のクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)として、Aタイプ(市民向健康増健・国保特定保健指導)、Bタイプ(観光)、Cタイプ(企業向健康増健・特定保健指導)等といった3つのタイプに加えて、新タイプ(案)として「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」を追加することを提唱した。

そうした背景には、現在、全国各地でクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)が広まり、それを活かした「市民の増健活動」と「観光効果への取り組み」等が進んでいる中でクアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)については、新たに外部からの参加者をより多く招き入れるための工夫と方策を新たに考える必要があるためである。

上山市にある「ミュンヘン認定コース」は、クアオルトの盛んなドイツにある学術的な研究機関であるミュンヘン研究所から日本で唯一認定されたコースである。「ミュンヘン認定コース」は、本来ならば、高いプライオリティを有しているにも拘らず、それをうまく対外的にアピールして集客できずにいた。

「ミュンヘン認定コース」の中でも「1,000mの準高地コース」の「蔵王高原坊平コース」と「お清水・樹氷原コース」の2コースについては、高山地域でもあることから、雄大な自然も楽しみ、日常生活とは異なる異質空間を提供できる。

こうした潜在的な商品価値を活かすために、「民間ベース」若しくは「官民連携ベース」にてコンソーシアムを組織し、参加者に対して全国から参加者を回り、「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」を提供することで集客を図った場合、「交流人口の拡大」および「関係人口の拡大」と共に、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)についても、より活性化できるものと予想される。

この場合の参加者の対象は、新タイプの「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」に興味を持ち長期間滞在可能な人たちとなる。

また、「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」への参加者は、それほど「食」の制限を受けない「健常者」であることを前提とし、クアオルト専用宿泊施設に長期滞在をしながら上山市の地元食材を使った「料理」や「飲物(日本酒・上山ワイン)」等を提供し賞味できるようにする。

当然ながら、クアオルト健康ウォーキング(「気候性地形療法ウォーキング」)の専任ガイドである蔵王テラポイト(クアオルト認定ガイド)についても「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」に適した特別プログラムを提供する立場から、コンシェルジュとして更にレベルアップする必要がある。

そして、「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」を運営していくためには、より多くの斬新な新しいアイデアが求められることから、地元の若い人達を中心に蔵王テラポイト(クアオルト認定ガイド)に据えることにより、「ミュンヘン型蔵王高地ウォーキング」を「ウェルビーイング・ツーリズム」として高いレベルに成長させていかなければならないのである。

参考文献

(日本語文献)

- 大江靖雄、2003、『農業と農村多角化の経済分析』、農林統計出版、103-204 頁。
- 大江靖雄、2015、「森林セラピーツーリズムの意義と課題：スローガンからエビデンス・ベースへ」『観光研究』第 27 号(1)、24-29 頁。
- 上山市、2014、「温泉健康施設を活用した健康づくり」、上山市、3-4 頁。
- 上山市、2016、「上山市の公衆浴場に関する基本方針」、上山市、1-5 頁。
- 上山市温泉クアオルト協議会、2010、「かみのやま温泉で気候性地形療法ウォーキング」、上山市温泉クアオルト協議会、2-13 頁。
- 上山市クアオルト推進室、2013、「かみのやま温泉クアオルト構想」、上山市、2-17 頁。
- 上山市クアオルト推進室、2014、「クアオルト健康ウォーキング in かみのやま」、上山市クアオルト推進室、1-14 頁。
- 上山市クアオルト推進室、2017、「かみのやま温泉クアオルトスタイル」、上山市クアオルト推進室、2-16 頁。
- 経済産業省経済解析室、2015、「シニア層の健康志向の高まり、そして地域別人口に影響されているフィットネスクラブー初めての経済センサス・活動調査結果も踏まえてー」、経済産業省、2-22 頁。
- 厚生労働省、2016、「地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現」、厚生労働省、2-15 頁。
- 後藤順子、高橋ちぐみ、2015、「新しい健康日本 21 へ 山形県上山市の『クアオルト健康ウォーキング』がめざす健康なまちづくりから」『山形保健医療研究』、第 18 号、1-8 頁。
- 佐野千鈴、2013、「温泉の街上山市の健康づくり」『体育の科学』第 63 巻 4 月号、293-297 頁。
- Schuh, Angela, 堀込ゲッテ由子訳、2008、「上山地形療法コースの測定と等級分け (『気候性地形療法』)」、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン・健康・リハビリテーション学研究所、1-17 頁。
- 白井義男、2010、『ツーリズム・ビジネス・マネジメントー サービス・マネジメント・アプローチ』、同友館、10-270 頁。
- 千葉千恵子、2011、『観光ビジネスの新潮流ー急成長する市場を狙え』、学芸出版、11-260 頁。
- 日経流通新聞、2018、「健康に意欲、若者も 6 割超」『日経流通新聞』、2018 年 2 月 4 日、2 頁。
- へるすあっぷ 21 編集部、2017、「HEALTH WATCH 2017」『へるすあっぷ 21』第 388 号、56-57 頁。
- 宮崎良文編、2016、『自然セラピーの科学ー予防医学的効果の検証と解明ー』、朝倉書店、169-174 頁。
- 山形県健康福祉部健康長寿推進課、2017、「山形県高齢社会関係データ集 平成 29 年」、山形県、1-2 頁。

(外国語文献)

- Bird, Isabella L. 2005. *Unbeaten Tracks in Japan*. New York: Cosimo, Inc..
- Ohe, Y. 2011. "Evaluating the complementary relationship between local brand farm products and rural tourism: Evidence from Japan." *Tourism Management*. Vol.35.pp.278-283.
- Ohe, Y., Ikei, H., Song, C., and Miyazaki, Y. 2017. "Evaluating the relaxation effects of emerging forest-therapy tourism: A multidisciplinary approach." *Tourism Management*. Vol.62.pp. 322-334.